BUDŌ NEWS

今月のニュース

日本・インドネシア国交樹立60周年記念事業
インドネシア共和国派遣日本武道代表団

日本・インドネシア国交樹立60周年記念事業
インドネシア共和国派遣日本武道代表団
武道で友好の絆を深める

日本・インドネシア国交樹立60周年記念事業の一環として、インドネシア共和国派遣日本武道代表団（主催＝日本武道館、日本武道協議会）が、昨年11月7日から14日までの8日間、インドネシア共和国ジャカルタ市へ派遣された。本事業は、武道演武大会を開催して日本武道の真髄を披露するとともに、ジャカルタ日本人学校での武道交流演武会、アトマジャヤ大学での武道セミナーを実施し、日本・インドネシア両国の友好親善と、広く武道の国際的普及振興を目的として実施された。

代表団は、高村正彦日本武道館会長を団長に、現代武道９種目（柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道）と古武道３流派（天神真楊流柔術、天真正伝香取神道流剣術、神道夢想流杖術）の計12団体の代表者65名に、日本武道館プロジェクト事務局等を加えた計74名で編成された（団員名簿別掲）。

主な派遣日程は、11月８日がインドネシア共和国青年スポーツ省への表敬訪問とアトマジャヤ大学での武道セミナー（２班に分かれて実施）、９日がジャカルタ日本人学校での武道交流演武会、10日が現地武道連盟との交流稽古会。11日は約２３００名の観衆が見守る中、ゲロラ・ブン・カルノ・バスケットボールホールにおいて日本武道代表団武道演武大会が実施され、多くのインドネシア国民、ジャカルタ市民に日本武道の真髄を披露した。

武道代表団派遣に先立つ８月にはアジア競技大会、10月にはアジアパラリンピック競技大会が開催され、ここジャカルタにおいて、日本武道の熱い風が再び巻き起った。

●表敬訪問（11月8日）

高村団長（左）からナフラウィ大臣に飾り兜が寄贈される

訪問した日本武道代表団一行と現地関係者たち

●結団式・壮行会（11月7日）

午前11時より、日本武道館第二小道場において、結団式・壮行会が行われた。結団後、臼井日出男日本武道館理事長の壮行の言葉に続き、団長の高村正彦日本武道館会長が「それぞれの武道で皆様方が示す武道の真髄によってインドネシアの方々の心は揺さぶられるでしょう。世界でも有数の親日国であるインドネシアとはこれまでの60年間、友好・信頼関係を築いてまいりました。これからの60年も更に絆を深められるよう、しっかりと責務を果してまいります」と決意を述べた。続いて、本派遣事業の成功を祈念し、吉井美恵子全日本なぎなた連盟常務理事の発声で乾杯が行われた。歓談後、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が壮途を祝して万歳三唱を行い、日本武道代表団一行は成田空港へ。

一行は、18時に成田空港を出発し、飛行時間約8時間の後、インドネシア・ジャカルタ市のスカルノ・ハッタ国際空港に、現地時間の23時45分（時差マイナス2時間）、無事到着した。

●表敬訪問（11月8日）

高村団長はじめ各道代表者は、インドネシア青年スポーツ省を表敬訪問。表敬には、武道団と共に石井正文駐インドネシア共和国特命全権大使も同行、総勢16名の訪問となった。青年スポーツ省では、イマム・ナフラウィ大臣、ガトット・デワ・ブロト次官らの出迎えを受け、高村団長が「日本・インドネシア国交樹立60周年を記念して、日本の武道の真髄を披露するため、貴国へやってまいりました。インドネシアは日本の最も大切なパートナーであり、文化交流を通じてさらに今後の友好親善に寄与できればと考えています」と述べると、イマム・ナフラウィ青年スポーツ大臣からは「記念すべき年に、高村先生を団長とする日本武道代表団をお迎えできて光栄です。60年にわたる日本との友好に深く感謝いたします。2020年には日本でオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されますが、インドネシアも2032年夏季五輪の招致を考えております。一層の友好親善を深めてまいりましょう」と応えた。

その後、高村団長から飾り兜が、ナフラウィ大臣からはインドネシアの伝統的な柄で染められたバティックが寄贈され、和やかな裡（うち）に表敬訪問は終了した。

●武道セミナー、武道演武会・武道体験会（11月8日）

14時より、ジャカルタの中央に位置する名門私立大学、アトマジャヤ大学にて武道セミナー及び武道演武会が行われ、約60名の大学生が参加した。

はじめに、剣道の神谷明文（みたにあきふみ）団員が「日本の武道」と題して講演を行った。「武道は、日本古来の尚武の精神に由来し、長い歴史と社会の変遷を経て、『術』から『道』に発展した日本の誇る伝統文化です。礼法を守り、基本を重視し、技術のみに偏せず、心技体を一体として修錬します。試合や演武に臨んでは、平素錬磨の武道精神を発揮し、最善を尽くすとともに、勝って驕（おご）らず負けて悔やまず、常に節度ある態度を堅持します。これが武道の精神です」と講演した。参加者は、普段の授業では聞くことができない武道の講義に、

●武道セミナー、武道演武会・武道体験会（11月8日）

多くの大学生が見守る中、演武会が行われた

神谷団員（剣道）による「日本の武道」の講演

天神真楊流柔術

弓　道

合気道

武道体験会では興味を持った種目で指導を受けながら、団員との交流を深めた

熱心に耳を傾けていた。

続いて、ステージ上で武道演武会が行われ、各道、各流派によって演武が披露された。その迫真の演武に、会場の学生たちは息を凝らして見入っていた。終了後は武道体験会を行い、団員との交流が図られた。大学の教員を含め、参加者は自身が興味を持った種目の指導を受けながら、にぎやかに武道を体験し、交流を深めた。

●ジャカルタ日本人学校での武道交流演武会（11月9日）

ホテルからバスで1時間半かけて日本国大使館付属ジャカルタ日本人学校に到着。子供たちから熱望され、開会式前に相撲体験会が屋根付屋外広場で行われた。小学部低学年を中心に多くの児童が集まり、団員との交流が図られ、楽しいひと時となった。体験会後には団員がサイン攻めにあい、列をなすほどの人気ぶりであった。

開会式は、高村団長が冒頭挨拶に立ち、「これから現代武道9種目、古武道3流派をジャカルタ日本人学校の皆様にご披露します。日本の武

●ジャカルタ日本人学校での武道交流演武会（11月9日）

剣　道

天真正伝香取神道流剣術

高村団長（右）が米村校長に記念品を贈呈する

神道無想流杖術

銃剣道

少林寺拳法

ジャカルタ日本人学校は全校生徒数が1千名を超すマンモス校であるため、全員が一度に体育館には入りきらない。そのため、今回の演武会には小学部高学年と中学部1、2年生の合計約400名が参加した。

演武は、はじめに弓道が舞台上で行われ、その後、授業時間の都合により畳と床でそれぞれ2種目ずつ同時に披露された。児童・生徒たちは間近で見る演武の迫力に興奮し、各武道の演武終了後には一頻り拍手と歓声が沸きあがり、武道交流演武会は盛会の裡に終了した。

閉会式では生徒代表が、「皆様の演武を拝見させていただき、集中力の大切さを感じました。何事にも集中して取り組み、マナーや作法を見直し、今後の生活に活かしていきたいです。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました」と、謝辞を述べた。続いて、立花加代子小学部教頭が「高村団長がおっしゃっていた武道の真髄を心でしっかり感じさせていただきました。団員の皆様方の演武を見て、武道に取り組む子どもが出てくることを期待します」と感謝の言葉を述べた。

相撲体験会

道界を代表するメンバーによって、十二分に日本武道の真髄を見ていただくことができると思います」と述べた。続いてジャカルタ日本人学校・米村博司校長が、「日本武道代表団の皆様、遠路はるばるお越しいただきありがとうございます。児童・教員一同、今日の演武会を非常に楽しみにしておりました。超一流の、12種目の武道を間近に見ることができる貴重な機会をいただき感謝しております。本校では学校教育の中で『分かち合い』『支え合い』を大切にしています。演武の中でも阿吽の呼吸で、分かち合いの心や支え合う姿が見られるのではないかと思いますので、しっかり学んでください」と歓迎の言葉を述べた。

●武道セミナー、武道演武会・武道体験会（11月8日）

石井正文
駐インドネシア共和国特命全権大使

ガトット・デワ・ブロト
青年スポーツ省次官

高村正彦団長

多くの来場者が開場時間を待ちわび、約2300名の観客が詰めかけた

団員と大会関係者

●交流稽古会（11月10日）

この日は、柔道、剣道、弓道、合気道、少林寺拳法の5団体は、それぞれ現地支部・団体との交流稽古会を行った。中でも少林寺拳法と合気道は多数の参加者が集まり、現地での人気の高さをうかがわせた。

●武道演武大会（11月11日）

本派遣事業の中心行事である日本・インドネシア国交樹立60周年記念武道演武大会が、ゲロラ・ブン・カルノ・バスケットボールホールにて開催された。

12時30分の開場時間を待ちわびる来場者によって長蛇の列ができ、広い駐車場はあっという間に満車となった。

大会は13時40分に開会。両国国歌斉唱の後、高村団長が挨拶に立ち、「日本が誇る伝統文化・武道の真髄を皆様にご披露できますことを、大変喜ばしく思います。武道を通じてたくましい身体と美しい心を養うために、日本では武道が中学校の義務教育に取り入れられております。今回の武道団のメンバーは、いずれも

合気道

なぎなた

空手道

剣　道

日本武道界を代表し、武道の真髄をお見せできる、一流の指導者・選手であります。ジャカルタの皆様が武道の真髄を心で感じていただくことで、今まで以上に、日本とインドネシア両国の友好関係を増進していくことができると確信しております」と述べた。

続いて、ガトット・デワ・ブロト・インドネシア共和国青年スポーツ省次官、石井正文駐インドネシア共和国特命全権大使がそれぞれ祝辞を述べた。

演武は、弓道の「持的射礼」で幕を開け、矢が的中するたび、満員の会場が大いに沸いた。現代武道9種目と古武道3流派の演武を見た観客は、胸中の琴線に触れたかのように盛り上がり、大きな歓声があがった。その様子は、まさしく友好関係の増進を表しているものであった。最後の演武種目である相撲の後に相撲体験会が実施され、大きな身体の団員に複数人で立ち向う子供たちの姿はとても和やかな雰囲気であり、観客は満面の笑みで演武大会の成功を象徴する万雷の拍手を送った。

閉会式では、高村団長が「ジャカ

天神真楊流柔術

弓　道

天真正伝香取神道流剣術

相　撲

ルタの皆様には、日本の武道をお楽しみいただきました。また、武道の真髄を間近で見て、感じていただきました。この後のワークショップにて、ぜひ実際に体験してほしいと思います。ふるってご参加ください」と挨拶。その言葉に促されたかのように、閉会式終了前から演武会場の脇には人垣ができ、武道体験会であるワークショップの開始を多くの人が待ちわびていた。

ワークショップは、全ての種目で人々の列が途絶えることなく、終了後も、あちらこちらで団員と別れを惜しんで記念撮影をする姿が見受けられた。

銃剣道

少林寺拳法

柔　道

神道無想流杖術

ワークショップの様子

●ワークショップ（11月11日）

日本・インドネシア国交樹立60周年ロゴマーク

●打上げ・慰労会（11月11日）

演武会終了後、宿舎のクラウンプラザホテルにおいて、本事業にご尽力いただいた在インドネシア日本国大使館、ジャカルタ日本人会などの関係者を招き、日本武道館主催の打上げ・慰労会が行われ、高村団長、石井大使の挨拶に続いて、弓道の柳町智孝団員の乾杯の発声で開宴し、演武会の成功を祝い、団員、現地関係者が一つになって喜びを分かち合った。会の終盤には、高村団長が全テーブルをまわり、団員一人ひとりを労った。

ジャカルタの独立記念塔を背に束の間のインドネシア視察

●解団式（11月12日）

大会の疲れを癒した後、夕方から市内のレストランに移動して解団式が行われ、少林寺拳法の日當喜澄団員の乾杯の発声で始まった。懇談の途中には、マジシャンである天神真楊流の渡邊卓也団員が手品を披露するなど、解団式は大いに盛り上がった。その後、各道代表者が本事業の感想を述べ、中締めは神道夢想流杖術の神代孝一団員が行い、閉会した。

●市内視察・帰国（11月13日）

最終日には、世界最大級の規模といわれるイスティクラルモスクや国立博物館を訪れ、束の間、インドネシア文化に触れる一日となった。市内視察後、21時25分、スカルノ・ハッタ国際空港を出発し、14日早朝の6時30分に成田空港へ到着。全団員の顔には演武会成功による達成感と安堵感が滲んでいた。

（文責＝インドネシア共和国派遣日本武道代表団・日本武道館プロジェクト事務局）

◎インドネシア共和国派遣 日本武道代表団団員名簿

◇団長
高村正彦（日本武道館会長）

◇団長秘書
高村治子

◇外務省
石川義久、野瀬由美子

◇日本武道館プロジェクト事務局
三好秀明、末吉潤、大場裕之

◇コーディネーター
安齋俊哉

◇柔道
川島一見（八段）、正田勇人（六段）、中山三雄（六段）、江種辰明（六段）、菅太誠（六段）、有川勇貴（五段）

◇剣道
神谷明文（範士八段）、野村良三（教士八段）、齋藤茂樹（教士八段）、藤田幹彦（教士七段）、長谷川恵一（教士七段）、川上有光（教士七段）

◇弓道
柳町智孝（教士七段）、澁谷佳史（教士七段）、伊藤紀美子（教士七段）、福地平（教士七段）、小牧佳世（教士七段）、福島幹子（五段）

◇相撲
木﨑雄也（参段）、幸地佑大（参段）、早田直通（参段）、金井旺雅（弐段）、真野圭梧（参段）、松原雄大（参段）

◇空手道
荒賀正孝（教士七段）、髙山雅彦（教士七段）、長友憲一郎（教士七段）、小来田剛（錬士六段）、山口貴史（五段）、永木伸児（五段）

◇合気道
入江嘉信（七段）、伊藤眞（六段）、鈴木昂平（二段）、須藤洋平（二段）、伊藤健（五段）、本多浩一（四段）

◇少林寺拳法
日當喜澄（正範士八段）、石井明仁（大拳士六段）、川島佑斗（正拳士五段）、秋元宏介（正拳士四段）、笹川理菜（中拳士三段）、山本瀬菜（中拳士三段）

◇なぎなた
谷本良子（教士）、小倉洋子（錬士）、大谷嘉奈子（錬士）、照井順子（五段）、萱場由華（五段）、志藤綾香（五段）

◇銃剣道
松本栄一郎（範士八段）、渋谷一幸（教士八段）、内田巳毅雄（教士八段）、松元克己（教士七段）、前村裕次（教士七段）、市原茂（教士七段）

◇天神真楊流柔術
渡邊卓也、八木宏之、小澤修一

◇天真正伝香取神道流剣術
京増重利（極意皆伝）、井沼和馬（免許）、櫻井俊也（免許）、岡﨑隆広（目録）

◇神道夢想流杖術
神代孝一（免許）、光廣勝人（教士八段）、乙藤美津子（教士七段）、上野二（杖道：錬士六段）

◇記録
後閑信弥（㈱クエスト）

団長以下総勢74名（敬称略）

役に立つ少年剣道指導法

山神眞一 著
（香川大学教授・同学部長、医学博士、剣道教士八段）

好評発売中

少年剣道指導の現場で役に立つ月刊「武道」好評連載を単行本化。現代の少年剣道が抱える様々な問題点に対して、長年教育現場で培った筆者の視点から解決の糸口を探っていく。少年剣道指導者必読の一書。

付録のＤＶＤには、写真では伝え切れなかった実技関連の部分を収録時間１１５分を超える映像で紹介。

解説ＤＶＤ付属！

Ａ５判・並製・２５６頁・ＤＶＤ付・本体２４００円＋税

目　次

第一章　一眼～子どもと少年剣道の今を眼る
現代の子どもの体と心を見つめ直す／少年剣道の現状と課題／少年剣道に対する保護者の声

第二章　二足～少年剣道の足跡とこれから
現代剣道復活の道程とこれからの少年剣道／剣道の国際化と少年剣道の未来／少年剣道拡大の秘密を探る

第三章　三胆～指導者の胆力を求めて
少年剣道における指導者の在り方／文武両道と少年剣道／コミュニケーション力と人材育成の極意

第四章　四力～技の力を学ぶ
剣道のアイスブレーキング／礼法について～立礼と座礼／木刀・竹刀を使用した構えと素振りの対人的指導法／切り返しの段階的指導法／基本打突の打ち方と打たせ方／連続技の打ち方と打たせ方／払い技の打ち方と打たせ方／引き技の打ち方と打たせ方

第五章　残心
海外での剣道事情／中学校における剣道授業

あとがき

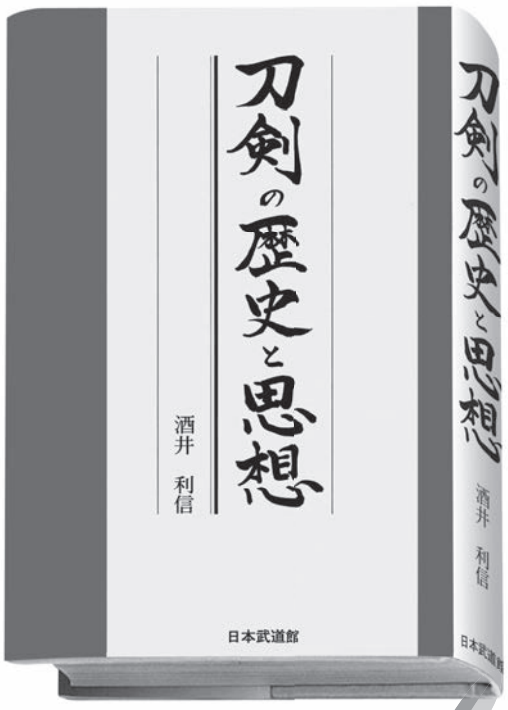
編集・発行　公益財団法人 日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

◎好評発売中

刀剣の歴史と思想

筑波大学教授　酒井利信　著

四六判・上製・346頁・本体2400円＋税



題字揮毫―鹿島神宮　鹿島則良　宮司

刀剣を単なる武器としてではなく、神聖なものとして捉える思想とは何か―

日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話、平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文献を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

目　次

序　章
第一節　探求の旅をはじめるにあたって
第二節　刀剣の歴史
第一章　刀剣思想の源流
第一節　古代中国の宝剣伝説　太阿の剣
第二節　干将莫耶の宝剣伝説
第三節　高祖の斬蛇剣
第四節　道教と剣
第五節　古代朝鮮の刀剣思想
第二章　神話的イメージの形成
第一節　神話的世界の形成と剣神の誕生
第二節　天より降る剣　師霊剣
第三節　天地を繋ぐ剣　草薙剣
第三章　信仰のなかの刀剣思想
第一節　祀る剣　祀られる剣
第二節　辟邪の呪剣
第三節　うけいの呪術と剣
第四節　修験道と剣
第四章　中世における刀剣思想
第一節　三種の神器の不思議
第二節　『平家物語』にみる三種の神器
第三節　『太平記』が語る草薙剣像
第五章　近世剣術における刀剣思想
第一節　剣術伝書に語られる日本神話
第二節　新当流にみる霊剣の技術
第三節　示現流にみる心の利剣
第四節　近世剣術における刀剣思想の展開
第六章　近現代における刀剣思想
第一節　近代以降の刀剣思想
第二節　古代と現代を繋ぐ刀剣
～鹿島神宮日本刀奉納鍛錬～
終　章　～稽古照今～

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第67回天皇杯

全日本相撲選手権大会

第67回天皇杯全日本相撲選手権（主催＝日本相撲連盟）は昨年12月2日、東京・両国の国技館で約2500名の観衆が見守る中、開催された。大会には、過去1年間に開催された各大会での成績に対して与えられるポイントの合計数が多かった社会人・大学生・高校生、総勢68名が出場し、アマチュア相撲日本一を目指した。

決勝は、黒川宏次朗（拓殖大職員）が重松龍大（東洋大）を寄り切りで破り、初の天皇杯に輝いた。

優勝＝黒川宏次朗（拓殖大学職員）

黒川宏次朗（拓殖大学職員）が初のアマチュア横綱に

決勝トーナメント1・2・3回戦

大会は予選3試合を行い、2勝以上の優秀選手38名を決定し、決勝トーナメントが行われた。

昨年の全国選抜大学・実業団対抗和歌山大会で3位の沢田日出夫（和歌山県庁）は、1回戦は上田将平（全富山）、2回戦は廣尾達成（日本大）に勝利。3回戦の中村淳一郎（アイシン軽金属）との対戦は上手投げで降して、準々決勝に進出した。

昨年行われた全日本実業団選手権大会で優勝した黒川宏次朗（拓殖大職員）は、2回戦で佐藤崇（三重県）を送り倒す。3回戦の田中達也（長崎県）との対戦では、黒川が左上手を取って有利な形になると、そのまま寄り切って勝利。準々決勝に勝ち進んだ。

前回の優勝者、西郷智博（鳥取県庁）は2回戦の楮佐古明輝（凸版印刷）との対戦では押し出しで勝利し、3回戦では干場伸介（東洋大）が体を開いた瞬間を逃さずに送り出す。西郷は盤石の取組で、2連覇を目指して準々決勝に勝ち上がる。

全国学生個人体重別選手権135kg以上級で3位の重松龍大（東洋大）は、2回戦で黒川宏次朗の兄で、本大会準優勝2回の実績を誇る黒川宗一郎（アイシン軽金属）と対戦。重松は臆することなく前に出て、押し出しで黒川に勝利した。続く3回戦、石崎拓馬（日本体育大）との対決は突き落としで重松に軍配が上がり、準々決勝に駒を進めた。

2回戦＝
黒川（右）が佐藤を送り倒す

2回戦＝
重松（左）が黒川を押し出す

準々決勝

沢田日出夫　○突き落とし　五十嵐敦

準々決勝第一試合は沢田と、昨年の全国選抜社会人選手権で優勝した五十嵐敦（盛岡市役所）の組合せとなった。

立合いから五十嵐が厳しく突っ張って、沢田を土俵際に追い込む。しかし沢田は冷静に右に回り込み、頭が下がり体勢が崩れた五十嵐を突き落とす。沢田は初のベスト4に進出した。

準々決勝＝沢田（左）が五十嵐を突き落とす

黒川宏次朗　○押し出し　白石雅仁

黒川の相手は、昨年の全国選抜大学・実業団対抗和歌山大会を制している白石雅仁（東洋大）。

白石は仕切り線から離れて突っ張りつつ、黒川との距離を測ろうとする。しかし黒川はそれを物ともせず下から前へと突っ張り、そのまま一気に白石を押し出して勝利。黒川は貫禄の取組を見せて、2015年以来の準決勝進出を決めた。

準々決勝＝黒川（右）が白石を押し出す

西郷智博　○寄り切り　宮下治也

178kgの西郷と170kgの宮下治也（拓殖大学）による重量級同士の対決。宮下は昨年の国体成年の部で準優勝を果たしている実力者。

立合い後すぐに西郷が右前褌を掴むが、宮下はそれを切って体勢が崩れた西郷を土俵際で右に叩き込む。しかし、西郷は落ちない。堪えた西郷は体勢を立て直して右を差し、宮下を土俵際に追い込んでそのまま寄り切った。史上9人目の連覇を目指す西郷が意地を見せて、準決勝に勝ち上がった。

準々決勝＝西郷（左）が宮下を寄り切る

重松龍大　○突き落とし　村山大洋

重松と、昨年ベスト8まで勝ち進んでいる村山大洋（新潟県）による準々決勝の最終試合。

重松は立合いから低く当たるが村山はいなす。しかし重松はそれを読んでいたかのように、すかさず体勢を立て直し、下から厳しく突っ張った。村山は重松の突っ張りに対して体勢を崩しながらも強引に前に出る。重松は冷静に体を開き、前傾になった村山を右から突き落として勝利。重松が大学生でただ一人、準決勝に進んだ。

準々決勝＝重松（奥）が村山を突き落とす

準決勝

黒川宏次朗　○押し出し　沢田日出夫

黒川にとっては4年ぶりとなる準決勝。前回は兄・宗一郎に敗れている。

立合いから激しくぶつかり合う。左を差そうとする沢田に対して、黒川は低い体勢で腕を返して沢田に廻しを取らせない。なおも前に出てくる沢田に対して黒川はいなし、右から押し出す。黒川が初の決勝の舞台へ勝ち進んだ。

準決勝＝黒川（手前）が沢田を押し出す

重松龍大　○突き落とし　西郷智博

重松は立合いから西郷に激しくぶつかって左を差し、右上手を取って有利な形となる。西郷はそれを許すまいと切って、体勢が崩れた重松を一気に土俵際まで押し込んでいく。しかし重松は上手く右に回り込み、俵に踵を乗せながら堪え、右足一本で西郷を突き落として勝利。重松は西郷の連覇を阻止し、黒川が待つ決勝戦に駒を進めた。

準決勝＝重松（左）が西郷を突き落とす

決勝

拓殖大学職員の黒川宏次朗と東洋大学の重松龍大による決勝。黒川は学生時代に学生横綱の座を獲得し、昨年の全日本実業団選手権も制している、アマチュア横綱のタイトルも欲しいところ。対する重松は、決勝トーナメント2回戦で黒川の兄である黒川宗一郎、準決勝では昨年の優勝者である西郷と、強豪を降しての決勝進出。本大会、勢いに乗る重松も悲願の天皇杯を目指す。

黒川宏次朗　○寄り切り　重松龍大

立合いから、両者低くぶつかり合う。黒川が右を差そうとするが、重松が組ませない。黒川は攻防の末に左下手をとり、そのまま右を差して優位な体勢をつくる。力強く重松を土俵際まで押していき、黒川が寄り切って勝負あり。

昨年の西郷智博に続いて社会人が2年連続で優勝し、黒川は念願のアマチュア横綱の座を勝ち獲った。

決勝＝黒川（左）が重松を寄り切る

兄の助言を力に、念願の天皇杯を獲得

◎優勝＝黒川宏次朗（くろかわこうじろう）四段（拓殖大学職員）

表彰式を終え、安堵の表情を浮かべる黒川選手。

「やっと勝ち上がってきたという感じです。決勝では、立合いや土俵際でしっかり集中して相撲を取ることを意識しました」と本大会を振り返る。

2015年には本大会で3位に入賞しており、全日本実業団選手権や全国学生選手権では優勝しているが、「アマチュア横綱」の座にはなかなか手が届かなかった。

松尾新吾大会会長から天皇杯を受け取る黒川（左）

「学生時代には4年間出場しましたが、優勝することはできませんでした。今まで努力してきて良かったなと思います。決勝が終わった瞬間、今までお世話になった方や、指導してくれた先生方、両親など、いろいろな方への感謝の思いが込み上げてきました」と悲願の天皇杯を手にした喜びと、支えてくれた周囲への感謝を述べた。

兄・宗一郎選手も本大会に出場。惜しくもトーナメント2回戦で準優勝の重松龍大選手に押し出しで苦杯を喫した。

「兄はこれまで準優勝を2回経験し、優勝に手が届かなくて悔しい思いをしていました。決勝前、兄は『重松選手は押す力が強い。でも、いつも通り、気負わずに取り組めばいける』と背中を押してくれました。兄の代わりに、というわけではありませんが獲れて良かったです」と照れくさそうに優勝を噛みしめた。

○準優勝＝重松龍大参段（東洋大）

「今日は全ての取組に力を出し切りました。自分の力以上のものを出すことが出来たので、これまで臨んできた試合の中では一番の出来だと思います。ただ、当然100点ではないですね。これからもこの結果に驕ることなく、しっかり日々の稽古に取り組んでいきたいです」

▽3位＝沢田日出夫四段（和歌山県庁）

「今日はよく体が動いていて反応も良い感じはしましたが、最後は甘さが出てしまいました。次は優勝目指して毎日頑張っていきたいです」

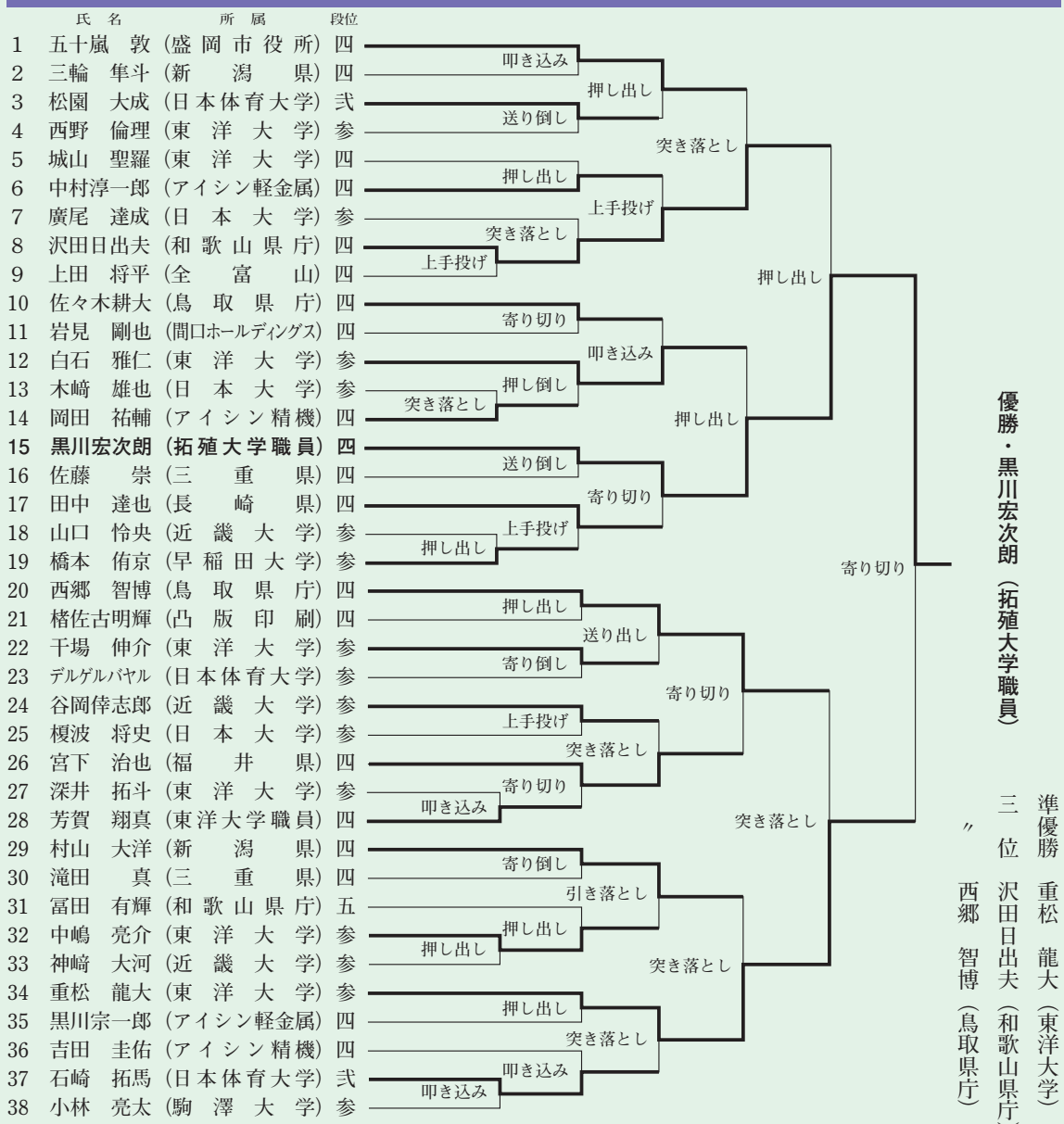
▽3位＝西郷智博四段（鳥取県庁）

「満足と後悔、両方が混ざった1日となりました。なんとか入賞できたのは嬉しいですが、最後の準決勝では土俵際で焦ってしまい、そこは悔いが残りますね」

第67回全日本相撲選手権大会

（決勝トーナメント）

	氏名	所属	段位
1	五十嵐 敦	（盛岡市役所）	四
2	三輪 隼斗	（新潟県）	四
3	松園 大成	（日本体育大学）	弐
4	西野 倫理	（東洋大学）	参
5	城山 聖羅	（東洋大学）	四
6	中村淳一郎	（アイシン軽金属）	四
7	廣尾 達成	（日本大学）	参
8	沢田日出夫	（和歌山県庁）	四
9	上田 将平	（全富山）	四
10	佐々木耕大	（鳥取県庁）	四
11	岩見 剛也	（間口ホールディングス）	四
12	白石 雅仁	（東洋大学）	参
13	木﨑 雄也	（日本大学）	参
14	岡田 祐輔	（アイシン精機）	四
15	**黒川宏次朗**	**（拓殖大学職員）**	**四**
16	佐藤 崇	（三重県）	四
17	田中 達也	（長崎県）	四
18	山口 怜央	（近畿大学）	参
19	橋本 侑京	（早稲田大学）	参
20	西郷 智博	（鳥取県庁）	四
21	楮佐古明輝	（凸版印刷）	四
22	干場 伸介	（東洋大学）	参
23	デルゲルバヤル	（日本体育大学）	参
24	谷岡倖志郎	（近畿大学）	参
25	榎波 将史	（日本大学）	参
26	宮下 治也	（福井県）	四
27	深井 拓斗	（東洋大学）	参
28	芳賀 翔真	（東洋大学職員）	四
29	村山 大洋	（新潟県）	四
30	滝田 真	（三重県）	四
31	冨田 有輝	（和歌山県庁）	五
32	中嶋 亮介	（東洋大学）	参
33	神﨑 大河	（近畿大学）	参
34	重松 龍大	（東洋大学）	参
35	黒川宗一郎	（アイシン軽金属）	四
36	吉田 圭佑	（アイシン精機）	四
37	石崎 拓馬	（日本体育大学）	弐
38	小林 亮太	（駒澤大学）	参



優勝・黒川宏次朗（拓殖大学職員）

準優勝　重松　龍大（東洋大学）

三　位　沢田日出夫（和歌山県庁）

〃　西郷　智博（鳥取県庁）

平成30年度ＪＯＣジュニアオリンピックカップ
第31回全日本小学生相撲優勝大会

小学６年生の部＝
左から林、武井、上原、篠

小学６年生の部・決勝＝林（右）対武井

小学５年生の部＝
左から倉岡、野口、奥田、古川

小学５年生の部・決勝＝倉岡（上）の上手投げ

小学４年生以下の部＝
左から豊田、西﨑、田宮、重村

小学４年生以下の部・決勝＝
豊田（右）の送り出し

全日本相撲選手権大会の予選と決勝トーナメントの間に、ＪＯＣジュニアオリンピックカップ第31回全日本小学生相撲優勝大会が行われた。大会は、各ブロックの相撲連盟が実施した大会の結果で出場代表選手を決定。大会には小学６年生、５年生、４年生以下の３部門に各33名、計99名の代表選手が出場し、熱戦が繰り広げられた。

小学６年生の部では、決勝で林玲（長野県）が武井銀士（静岡県）を突き落として優勝を飾った。

小学５年生の部では、昨年４年生以下の部で優勝した倉岡優太（熊本県）が野口明輝（石川県）を上手投げで降して優勝。

小学４年生以下の部では、豊田倫之亮（鹿児島県）が西﨑想馬（東京都）を送り出して優勝した。

【大会結果】

■小学６年生の部
◎優　勝＝林　玲（長野県）
○準優勝＝武井銀士（静岡県）
▽３　位＝上原煌輝（石川県）
**　　篠　宗磨（新潟県）**

■小学５年生の部
◎優　勝＝倉岡優太（熊本県）
○準優勝＝野口明輝（石川県）
▽３　位＝奥田蒼真（大阪府）
**　　古川勇人（福岡県）**

■小学４年生以下の部
◎優　勝＝豊田倫之亮（鹿児島県）
○準優勝＝西﨑想馬（東京都）
▽３　位＝田宮愛喜（愛知県）
**　　重村鴻之介（鹿児島県）**

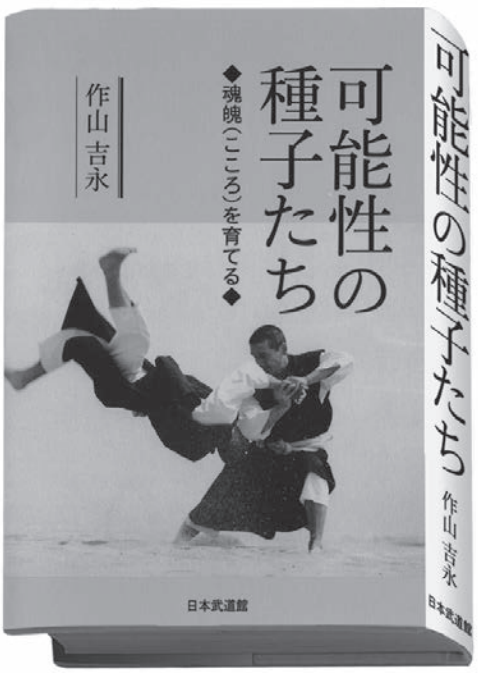
好評発売中

『人、人、人、すべては人の質にある……』
少林寺拳法創始者・宗道臣先生に直接手ほどきを受けた著者入魂の武道教育論！

可能性の種子たち
―魂魄（こころ）を育てる―

『魄（はく）』は生きるための生命力――
『魂（こん）』は人間を善に導く原動力――

魂魄（こころ）が健全に育てば、豊かな感性や意思力、行動力などが備わり、やがて得るであろう多くの知識を、智慧とすることができる。子どもたちの躍動の一つひとつが、可能性の種子の芽生えなのである。



金剛禅総本山少林寺茨城高萩道院長
作山吉永 著
（四六判・上製・338頁）

主な目次

第1章 少林寺拳法／第2章 直心是道場／第3章 師事／第4章 マイ・アメリカ／第5章 可能性の種子、芽吹く／第6章 嵩山少林寺／第7章 魂魄（こころ）を育てる／第8章 新しい扉を開く

編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）

大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）

マンガ・武道のすすめ

（B5判・236頁）

漫画家・別府大学教授 **田代しんたろう 著**

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。

大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

少林寺拳法は4話を掲載！

組手個人戦 男子

香川幸允が王座奪還

組手個人戦 女子

植草歩が前人未到の４連覇達成

天皇盃・皇后盃第 46 回全日本空手道選手権大会

男子組手個人戦・決勝＝香川幸允（左）が上段突きで先制する

第46回全日本空手道選手権大会（主催＝全日本空手道連盟）が昨年12月8日（東京武道館）に男女組手団体戦が、9日（日本武道館）に男女個人組手競技・男女個人形競技が行われた。なお、大会はＮＨＫ総合テレビで初めて生中継された。

２０１６年に空手道が東京五輪追加種目に決定したことを受け、その年に開催された第44回大会より男女組手個人戦優勝者に天皇盃・皇后盃がそれぞれ下賜されている。

9日の男女個人組手では、男子は覚悟を持って臨んだという香川幸允（東京都）が5年ぶり2度目の優勝。女子は、植草歩（前年度優勝）が相手に1ポイントも与えず、前人未到の女子４連覇を達成した。

男子個人形では喜友名諒（前年度優勝）が7連覇を、女子個人形では清水希容（前年度優勝）が6連覇を達成した。

また、8日の組手団体戦において、男子は神奈川県が決勝で千葉県を３―０で破り、初優勝を果たした。また、女子では、植草歩を擁する千葉県が静岡県を降し、３年連続４回目の優勝を飾った。

男子組手個人戦・準決勝①＝
香川幸允（右）が上段突きでポイントを奪う

男子組手個人戦・準決勝②＝
安藤大騎（左）が上段裏回し蹴りで逆転に成功する

男子組手個人戦・決勝＝
香川幸允（左）が上段突きでリードを広げる

■組手個人戦

試合はトーナメント方式で時間は男子3分、女子は2分とし、8ポイント差がついた時点で試合終了とした。同点の場合は「先取」（先にポイントを取ること）の得点がある方を勝者とし、「先取」の得点がない場合は審判の旗判定により、勝敗を決した。また、準決勝以降の試合において「ビデオレビュー（以下、VR）」を採用した。

◆男子（54名出場）

日本代表選手のエントリーが少なく、前年度優勝の渡邊大輔までが欠場する中、準決勝に駒を進めたのは江藤純哉（福岡県）、香川幸允（東京都）、安藤大騎（学連）、飯村吏毅哉（熊本県）の4名。

準決勝戦①

香川幸允　7―5　江藤純哉

準決勝第1試合は香川対江藤。香川は序盤から前に出て、江藤にプレッシャーをかける。香川は幸先よく上段突きでポイントを奪い、主導権を握る。反撃に出た江藤の上段蹴りが見事に決まり、香川から一本を奪い4―4の同点に。しかし、その後は試合巧者の香川が着実にポイントを重ね、最終的には7―5で江藤を退け、決勝進出を決めた。

準決勝戦②

安藤大騎　7―6　飯村吏毅哉

準決勝第2試合は安藤対飯村。序盤から激しい技の応酬戦となった。安藤が先制の上段突きを決めると、飯村が中段蹴りと上段突きで逆転に成功する。すかさず安藤が中段蹴り、上段蹴り、上段突きを決め、7―3と再度逆転し、リードを奪う。飯村は終了間際に上段蹴りを決めるも反撃及ばず、安藤が決勝に駒を進めた。

決勝戦

香川幸允　6―2　安藤大騎

安藤は蹴り技を中心に香川にプレッシャーをかけるが、香川が上段突きで先制する。香川は、その後も中段突きでポイントを積み重ねる。どっしりと構え、相手の出方を窺う香川に対し、安藤は遠間から飛び込むように突きと蹴りで間合いを詰める。ここから安藤が怒涛の反撃を見せる。安藤は立て続けに上段突きを決め、ポイントを2―2とし、つい

女子組手個人戦・決勝＝
植草歩（右）が上段突きで先取し、主導権を握る

女子組手個人戦・準決勝①＝
植草歩（左）が上段突きで攻める

女子組手個人戦・準決勝②＝
八頭司歩（左）が上段突きで攻める

に香川に追いつく。追いつかれた香川だったが落ち着いていた。香川は狙い澄ました上段突きで再びリードを奪う。試合終盤に安藤が一発逆転を狙い、上段裏回し蹴りで勝負に出る。しかし、反対に香川がこれを上手く捌き、倒れ込んだ安藤に上段突きを決めて一本を奪う。香川は5年ぶりとなる2度目の優勝を飾った。

◆女子（54名出場）

準決勝に勝ち残ったのは、前年度優勝の植草歩と笠原万保子（神奈川県）、嶋田さらら（千葉県）、八頭司歩（宮崎県）の4名。昨年準優勝の宮原美穂（学連）は欠場した。

準決勝戦①

植草　歩　4―0　笠原万保子

準決勝1試合目は、植草と笠原が対戦。植草は序盤から積極的に前に出る。植草は得意の上段突きで先制するとその後もポイントを重ねる。反撃に出る笠原だったが、女王の牙城を崩せず4―0で完敗。植草は4年連続で決勝進出を果たす。

準決勝戦②

八頭司歩　1―0　嶋田さらら

準決勝第2試合は、大学2年の八頭司と高校2年の嶋田が対決。若手実力者同士の試合。八頭司が試合序盤に上段突きでポイントを奪う。追いかける立場となった嶋田は、積極的に前に出るもポイントが奪えない。序盤のリードを守り切った八頭司が逃げ切り、決勝進出を決めた。

決勝戦

植草　歩　3―0　八頭司歩

決勝は植草と八頭司の対戦。序盤、八頭司が中段蹴りで牽制する。これに対し、植草は中段突きで応戦する。開始30秒で両者に忠告が与えられる。先制したのは植草。試合開始約1分後に上段突きを決め、先取する。リードされた八頭司は中段蹴り、上段蹴りで攻勢に出る。しかし、女王・植草は八頭司の攻撃を落ち着いて捌き、カウンターの上段突きを決め、さらにリードを広げる。残り時間6秒、八頭司の上段突きに対し、コーチがVRを申請するが、認められず試合再開。植草は、終了間際にも上段突きを決め、3―0で完勝し、女子では史上初の大会4連覇を達成した。また、植草は今大会を通じて、相手に1ポイントも与えずに完封し、頂点まで上り詰めた。

■形個人戦

前年度優勝者、各地区代表、全空連推薦者が出場。形の選定は指定形リスト、承認されている得意形リストから選択する。選手は試合ごとに異なる形を演武し、勝敗は5名の審判による旗判定で過半数の票を獲得したものを勝者とした。

◆男子（16名出場）

優勝候補筆頭の喜友名諒（前年優勝）は、初戦をセーパイ、2回戦をクルルンファで勝負した。抜群の安定感でともに5―0の完勝で準決勝進出を決めた。他に準決勝に進んだのは船本裕哉（全空連推薦）、杉野拓海（北信越地区）、小崎大碁（学連）の3名。

準決勝第1試合は喜友名がスーパーリンペイ、船本がウンスーを選択。旗判定の結果、喜友名が5―0で船本を降し、決勝進出。続く第2試合では、杉野がゴジュウシホショウ、小崎がスーパーリンペイで対戦。旗判定は割れ、4―1で杉野が自身初となる決勝進出を果たす。

女子形個人戦＝
優勝・清水希容

男子形個人戦＝優勝・喜友名諒

女子形個人戦＝
準優勝・遠藤千夏

男子形個人戦＝
準優勝・杉野拓海

決勝は喜友名が得意のアーナンに対して、杉野はガンカクで勝負。喜友名は、一発目に全てを掛けたと力強い掌底を決め、観客を魅了した。杉野も会心の演武で絶対王者に挑んだ。旗判定は5―0で喜友名の勝利。喜友名は全試合を完封し、7連覇を達成した。

◆女子（16名出場）

準決勝には、大会5連覇中の清水希容と、大内美里沙（高体連）、住友優里（学連）、遠藤千夏（関東地区）が勝ち進んだ。

準決勝第1試合では、清水がスーパーリンペイ、大内がチャタンヤラ・クーサンクーを演武。判定の結果5―0で清水が決勝に進出。一方では、遠藤がガンカク、住友がゴジュウシホショウを選択した。判定の結果的は3―2と接戦を制した遠藤が決勝に勝ち進んだ。

決勝は、清水と遠藤の同学年対決となった。清水がチャタンヤラ・クーサンクーを、遠藤はゴジュウシホショウを選択。清水は納得の演武ではなかったと話すが、判定は5―0の完勝。見事6連覇を成し遂げた。

■組手団体戦

試合は都道府県ごとに編成されたチームで男子は5人制、女子は3人制の点取り方式で行われた。

◆男子（5人制・47チーム）

昨年10連覇を達成した京都府が、3回戦で敗退する波乱が起きる。

決勝に勝ち進んだのは、神奈川県と千葉県。先鋒戦で神奈川県・小林宗和が千葉県・渡邉健太に5―5の先取で勝利。神奈川県は一気に勢いに乗り、3連勝で優勝を決めた。

◆女子（3人制・47チーム）

決勝戦は、昨年優勝の千葉県と静岡県の対決。先鋒戦は引分。中堅戦と大将戦で互いに1勝をあげ、勝負は代表戦へ。千葉県・植草歩は静岡県・岡崎愛佳に上段蹴りを決め、3―0で勝利し、千葉県を3年連続4度目の優勝に導いた。

【組手団体戦大会結果】

◆男子＝①神奈川県、②千葉県、③大阪府、熊本県

◆女子＝①千葉県、②福岡県、③京都府、東京都

◎優勝者インタビュー

組手個人戦
男子

覚悟を持って臨んだ大会

香川幸允選手
（東京都）

――今の率直な気持ちをお願いします

「素直にうれしいです」

――5年ぶりの優勝ですが

「感慨深いものがあります。今回は覚悟を持って臨んだ大会だったので結果が出て、うれしいです。他のナショナルチームの選手が、海外の試合でランキングをあげる中で、自分は全日本選手権大会を選びました。日本代表としての誇りをもって、他の選手には負けられないという気持ちで一戦一戦を戦い抜きました」

――覚悟の大会というのはどういったことでしょうか

「今年1年を通して好不調の波がひどく、世界大会でも団体ではメダルを取れましたが、個人戦では不甲斐ない結果に終わりました。全日本選手権はしっかり勝ちに行くという気持ちと、応援してくれる人に良い試合を見せられるようにという思いが強かったです」

――2018年を優勝で締め括りましたが、どんな1年でしたか

「夏の大会までは、ほとんどが一回戦負けでした。精神的に苦しい時期が続きました。アジア大会の結果を浮上のきっかけにしたかったのですが、直後の世界選手権で負けてしまいました。年間通して安定した成績を出せるように努力していきたいです」

――今後の具体的な目標についてお聞かせください

「1月から国際大会の連戦が始まります。日本代表として派遣される以上は、必ずメダル獲得を目指して試合に臨みたいと思います」

組手個人戦
女子

敗戦を乗り越えて4連覇

植草歩選手
（前年度優勝）

――今の率直な気持ちをお願いします

「今日は緊張しませんでした。今まで修正したこと、やってきたことを出すだけだと思って大会に臨みました」

――ポイントを取った時に笑顔が見られましたが、リラックスできていたということでしょうか

「多くの日本代表選手の出場が少ない中で、いつもと違う雰囲気がありました。その中でも自分がチャンピオンだということを意識することで楽しく試合ができました」

――4連覇についてこだわりがあったようですが

「女性の歴代チャンピオンが達成できなかった4連覇なので、伝説を作るのは私でありたいという気持ちが強かったです」

――伝説を成し遂げ、改めて2018年を振り返ると、どのような年でしたか

「負けから始まった1年でした。変化をもとめて悩んだ1年でした。世界選手権で勝つことで全てが報われると思っていましたが、それもかないませんでした。世界選手権の負けが挫折となり、より考えさせられ自分自身を問いただす良いきっかけになりました。どんな自分になりたいか、これからどうするかをサポートスタッフと考え、その努力が今回の優勝という成果に繋がったと思います」

――今後の抱負について

「2019年も年間チャンピオンになり、オリンピックに向け、弾みをつけたいと思います」

形個人戦
男子

世界王者としての自覚

喜友名諒選手

（前年度優勝）

――今の率直な気持ちをお願いします

「決勝で自分の流派である劉衛流（りゅうえいりゅう）のアーナンを、しっかり決めることができてよかったと思います」

――試合にはどのような気持ちで臨みましたか

「世界王者という自覚を持ち、全日本で見せつけてやろうという気持ちで臨みました」

――良かったところと課題は

「初戦、2回戦のセーパイ、クルルンファは、全日本選手権だけでしか演武しないので、丁寧に演武することを意識しました」

――7連覇についてはいかがでしょうか

「7連覇はうれしいです。日頃から佐久本先生と稽古をしているので、それを大会の舞台ではっきするだけです。いつも通り、思いきり演武することで7連覇という結果がついてきたと思います」

――2018年を優勝で締め括りましたが、振り返ってみてどのような年でしたか

「大会が多かったです。毎月海外での大会に参戦することで、得るものが大きかったです。課題を見つけ、それを修正することの繰り返しで、試合の雰囲気に慣れてきたように思います」

――2018年で一番印象に残っている大会は

「世界選手権ですね。個人、団体で連覇できたことが印象に残っています」

――今後の抱負について

「来年はオリンピックに繋がる大切な年になるので、しっかり練習してオリンピックへ繋げたいと思います」

形個人戦
女子

世界大会の敗戦を糧に

清水希容選手

（前年度優勝）

――今の率直な気持ちをお願いします

「正直、今は複雑な気持ちです。世界大会の敗戦から気持ちを切り替えられない部分があり、今回の内容が納得できていない部分が多く、悔しい気持ちの方が強いです。1月にはすぐに国際大会が控えていますので、内容を含めて良い試合をしたいです」

――どのような気持ちで大会に臨みましたか

「今回は課題をもって取り組みました。今大会は失敗して学んだことが多かった大会となりました。できたところと、できなかったところがありますので、今後はしっかりと修正・克服していきたいと思います」

――6連覇について

「連覇については特に意識しませんでした。一つ一つの試合をしっかりと勝ち切ることを意識しました。課題にチャレンジして、今の自分がどこまでやれるかを確かめることができました」

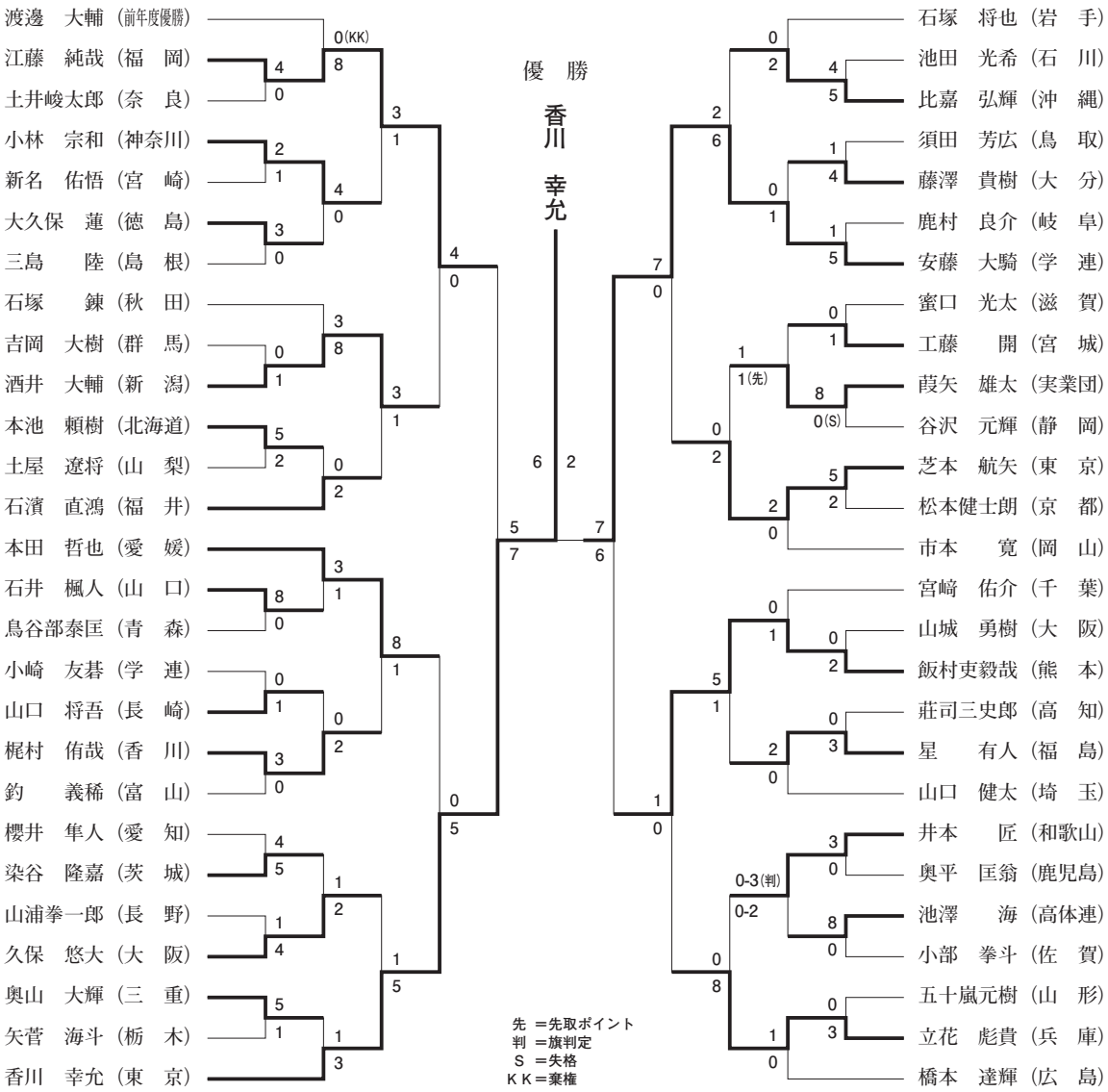
――2018年を優勝で締め括りましたが、振り返るとどのような年でしたか

「今年1年は多くのいろいろな経験ができ、自分自身が成長できた年になりました。オリンピックまで1年半なので、より多くの課題に取り組み、一歩ずつ進んで成長していきたいと思います」

――今後の目標は

「オリンピックまでの取り組みを考えると残された時間は多くありません。限られた時間を無駄にせず、練習に励んでいきたいと思います」

組手個人戦　男子



形個人戦　男子

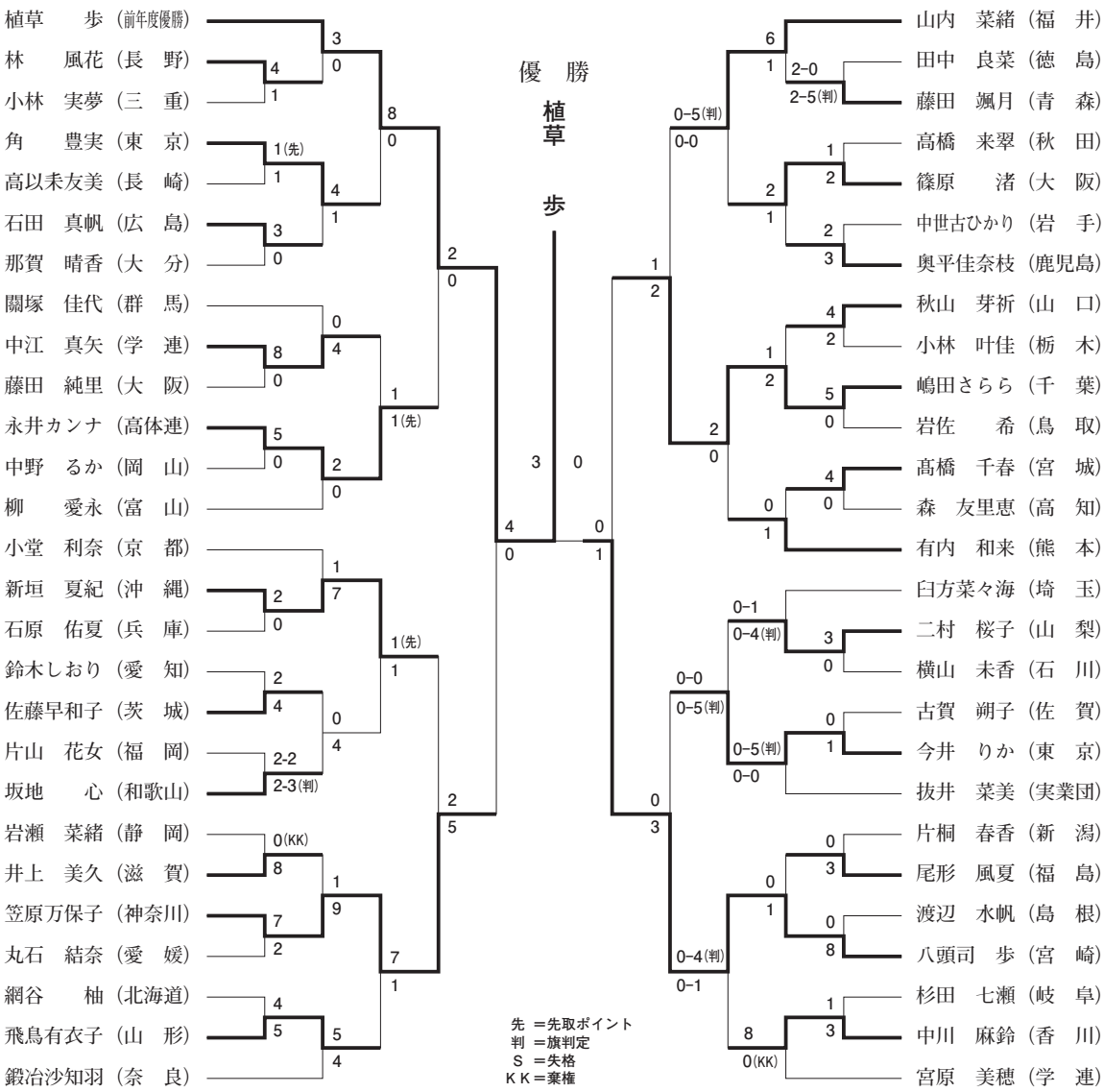
▼一回戦
5 喜友名諒（前年度優勝）セーパイ
0 大畠虎太郎（推薦）セイエンチン
1 舩越大輔（中国）バッサイダイ
4 舟田　葵（高体連）チントウ
0 村田望留（関東）セイエンチン
5 船本裕哉（推薦）ジオン
2 西原啓太（四国）ジオン
3 年代海里（東海）セイエンチン
3 杉野拓海（北信越）ジオン
2 河上陸士（実業団）セーパイ
1 木戸浩貴（東北）セーパイ
4 中園拓也（九州）セーパイ
3 佐々木瞭友（北海道）セーパイ
2 重山隆悟（近畿）セーパイ
4 小崎太碁（学連）セーパイ
1 田中透也（推薦）セーパイ

▼二回戦
5 喜友名諒　クルルンファ
0 舟田　葵　クーシャンクー
4 船本裕哉　エンピ
1 年代海里　ニーパイポ
3 杉野拓海　エンピ
2 中園拓也　セーサン
1 佐々木瞭友　クルルンファ
4 小崎太碁　クルルンファ

▼準決勝
5 喜友名諒　スーパーリンペイ
0 船本裕哉　ウンスー
4 杉野拓海　ゴジュウシホショウ
1 小崎太碁　スーパーリンペイ

▼決勝
5 喜友名諒　アーナン
0 杉野拓海　ガンカク

組手個人戦　女子



形個人戦　女子

▼一回戦
- 5 清水希容（前年度優勝）バッサイダイ
- 0 紺屋沙也乃（四国）バッサイダイ
- 2 齋藤沙希（東北）バッサイダイ
- 3 南本愛良（中国）バッサイダイ
- 2 中川紗希（東海）バッサイダイ
- 3 大内美里沙（高体連）バッサイダイ
- 5 平　紗枝（推薦）ジオン
- 0 渡辺ほのか（北信越）バッサイダイ
- 3 鈴木美晴（実業団）セーパイ
- 2 山田和花（推薦）セーパイ
- 5 住友優里（学連）ジオン
- 0 森田うらら（九州）バッサイダイ
- 5 遠藤千夏（関東）ジオン
- 4 畑山久留実（近畿）バッサイダイ
- 1 坂本杏樹（北海道）バッサイダイ

▼二回戦
- 5 清水希容　ニーパイポ
- 0 南本愛良　ニーパイポ
- 3 大内美里沙　ニーパイポ
- 2 平　紗枝　エンピ
- 0 鈴木美晴　クルルンファ
- 5 住友優里　エンピ
- 3 遠藤千夏　エンピ
- 2 畑山久留実　ニーパイポ

▼準決勝
- 5 清水希容　スーパーリンペイ
- 0 大内美里沙　チャタンヤラ・クーサンクー
- 2 住友優里　ゴジュウシホショウ
- 3 遠藤千夏　ガンカク

▼決勝
- 5 清水希容　チャタンヤラ・クーサンクー
- 0 遠藤千夏　ゴジュウシホショウ

日本武道館の単行本

空手評論家
金城　裕（きんじょう　ひろし）著

唐手から空手へ

題字　松永光日本武道館会長

（四六判・上製・四五四頁）

今の空手は、その源流である唐手（からて）の精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある――。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

第一章　「唐手」とは、の問いに答える
第二章　中国拳法を巡って
第三章　琉球と中国の関係史
第四章　松村宗昆、「手」に息吹きを与える
第五章　首里手から唐手へ
第六章　「唐手」から「空手」へ
終　章　空手の進むべき道

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編

一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

（B5判・上製・箱入・526頁）

我が空手人生

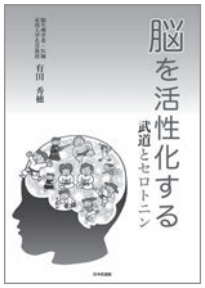
國際松濤館空手道連盟館長 **金澤 弘和 著**

父母の教え、「からて」との出合い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

（四六判・上製・372頁）

脳を活性化する

武道とセロトニン



東邦大学名誉教授 **有田 秀穂 著**

人間の心身を安定させるセロトニン――。その研究の第一人者が、誰もができる脳を活性化させる方法をわかりやすく解説。

（A5判・並製・346頁）

BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

（B5判・上製・336頁・DVD付）

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 **田代しんたろう 著**

武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

（B5判・並製・236頁）

大先輩に聞く

月刊「武道」記者 **田谷 将俊 著**

各武道の先達三十名に直接取材。武道との出合いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

（四六判・上製・376頁）

皇后盃第63回全日本なぎなた選手権大会

林田智笑（大阪）が２連覇達成

決勝＝林田智笑（左）が２本目のすねを決める

皇后盃第63回全日本なぎなた選手権大会（主催＝全日本なぎなた連盟）が、２０１８年12月２日、浦安市運動公園総合体育館メインアリーナにおいて開催された。各都道府県から選ばれた53名の選手が、なぎなた日本一の座を狙い、覇を競った。

決勝は昨年女王の林田智笑（大阪）が築城理恵（大分）を降し、見事２連覇を達成した。３位には白川未樹（香川）が２年ぶりの入賞を果たした。

大会はトーナメント戦で行われ、試合時間は5分。時間内に勝敗が決しないときは判定とした（決勝のみ3分1回の延長あり）。

準決勝には前回優勝の林田智笑（大阪）と白川未樹（香川）、築城理恵（大分）と井上美代（島根）が勝ち上がった。

◇

◆準決勝

▽林田智笑　スス―　白川未樹

序盤から積極的に試合を展開する林田。鋭い打ち込みで白川を攻める。白川も対抗し、技を繰り出そうとするが林田の動きに対し、上手く

技を決めることができない。そして、すねを仕掛けようとした白川に林田がすねを打ち込み、一本。その後、白川も面、小手の連続技を繰り出すが林田はこれを上手く躱す。そのまま勢いにのった林田は再度白川へすねを打ち、再び一本。見事、二本勝で決勝戦へ勝ち進んだ。

▽築城理恵　判―　井上美代

先に攻撃を図ったのは築城。井上へ鋭い面を打ち込むが惜しくも一本にならない。井上も前に出ようとするが、築城は巧みに攻撃を捌く。試合開始1分30秒後、築城は再び面を決めようと攻めるが、旗は一本しか上がらない。その後、試合中盤で井上が築城の攻撃をうまく避けきれずに、なぎなたを落とし、反則となる。試合再開後は、築城が優勢に進めるも一本は決まらず、時間切れに。勝負の行方は判定へ委ねられた。結果は築城に3本の旗が上がり、初の決勝進出を決めた。

準決勝＝林田（左）が白川にすねを決める

準決勝＝築城（右）が井上を面で攻める

◆3位決定戦

▽白川未樹　判―　井上美代

試合開始と同時に飛び込む白川。井上に対し、力強く打突を打ち込んでいく。井上も負けじと果敢に攻撃するが、白川はそれを冷静に捌く。その後も、白川は相手の隙を狙って連続技を繰り出すが、有効打突にはならず、そのまま試合終了。判定の結果、白川に旗が2本上がり、2年ぶりの3位入賞となった。

3位決定戦＝白川（左）対井上

▽3位＝白川未樹選手（香川）

「多くの方々にお世話になって、一年の成果をここで発揮しました。3位決定戦の井上選手は都道府県対抗戦で対戦したので今回も挑戦していく気持ちで臨みました。高校で教員をし、部活も受け持っているので、この経験を生かして生徒の皆に伝えていきたいと思います」

決勝戦＝林田（右）の一本目の鋭い小手

◆決勝戦

▽林田智笑　コスーメ　築城理恵

2連覇がかかる林田と初優勝を狙う築城の対戦。序盤、互いの出方を探る両者。遠間から両者技を繰り出すタイミングを窺う。先に勝負に出たのは築城。手元を一瞬動かした林田へ小手を打ち込むが、一本にならず。林田も、築城に小手を打ち込むが技は決まらない。その直後、林田がなぎなたを振り上げた瞬間に築城が面を打ち込み、先取する。

後がなくなった林田であったが、冷静に相手の出方を見極める。そして、試合再開の合図からわずか10秒後に、林田は一気に間合いをつめ、鋭い小手を打ち込み、一本を取り返した。両者互角の展開となり、会場の空気も緊迫する。

その後は両者、技を連続して出し合い、激しく攻め合う。観客からは、技が繰り出される度に拍手が湧くものの、なかなか旗は上がらない。試合が動いたのは、終盤となった4分10秒過ぎ。築城がなぎなたを動かした瞬間に、林田はその隙を狙って再びすねを打ち込み、一本。林田が逆転勝利し、見事2連覇を達成した。

◎優勝＝林田智笑選手（大阪）

「前回も本大会で優勝させていただきましたが、今回も優勝者としてではなく、挑戦者として臨みました。その結果、再び優勝することができ、今まで教えてくださった先生方や家族に対して本当に感謝の気持ちでいっぱいです。決勝戦は昔から憧れていた築城先生との試合だったので胸を借りるつもりで思い切って挑みました。次の目標は、世界大会の予選で日本代表選手に選ばれるように頑張りたいと思います」

○準優勝＝築城理恵選手（大分）

「今やれることはしっかりやったかなと自分では思っています。練習では、気持ちを込めて打つということを心がけてきました。次の世代の選手たちがいい試合をしているので、私も自分の技を磨きつつ、若い人たちの指導に生かしたいです」

皇后盃　第63回全日本なぎなた選手権大会

称号·段位	選出	氏　名
四段	（大阪）	林田　智笑
錬士	（和歌山）	山本　千代
五段	（宮崎）	宮森　洋子
五段	（広島）	福田さつき
五段	（秋田）	竹村　紀子
五段	（宮城）	櫻田　祐子
錬士	（兵庫）	清水真由美
四段	（奈良）	柴田　真子
四段	（鹿児島）	上牧　真美
四段	（福井）	渡辺　啓乃
四段	（神奈川）	鈴木　保子
五段	（山梨）	志藤　綾香
四段	（埼玉）	髙瀬　　怜
五段	（富山）	早田　朱美
四段	（千葉）	星　若加菜
四段	（福岡）	森田　結妃
四段	（香川）	白川　未樹
四段	（沖縄）	石原　舞子
五段	（京都）	貫井みさき
五段	（福島）	武藤小夜子
錬士	（東京）	吉井　和代
四段	（愛媛）	村上　　優
錬士	（熊本）	大曲　里美
四段	（大阪）	林田　葉純
五段	（愛知）	林　香予子
五段	（群馬）	石田由美子
四段	（静岡）	松本　佳奈

優勝・林田智笑

準優勝・築城理恵

3位決定戦
白川未樹

白川未樹　　井上美代

氏　名	選出	称号·段位
西村　美香	（岩手）	錬士
池田美由希	（高知）	四段
松下由佳理	（静岡）	四段
戸田　千恵	（長野）	五段
築城　理恵	（大分）	錬士
金岡　智子	（大阪）	五段
枡本　明理	（新潟）	錬士
高倉　希望	（神奈川）	四段
窪田　恵望	（佐賀）	五段
藤井　香代	（岐阜）	四段
山﨑　恵美	（山口）	四段
鳥飼　明子	（鳥取）	錬士
和田うらら	（東京）	五段
服部ゆかり	（茨城）	五段
水田　孝子	（岡山）	五段
橋本　実紀	（埼玉）	四段
杉野　　圭	（三重）	四段
藤岡　葉月	（石川）	四段
小田　和子	（北海道）	四段
北村由美子	（滋賀）	四段
加藤　貴子	（青森）	四段
浅沼　友貴	（兵庫）	四段
大西　真子	（山形）	四段
紫関　譲子	（東京）	教士
大谷嘉奈子	（千葉）	錬士
佐藤　亜季	（栃木）	四段
井上　美代	（島根）	四段

※　○囲みは先取した有効打突

リズムなぎなた（国際武道大学）

開会式

第18回全日本男子なぎなた選手権大会

増田道仁（兵庫）が親子対決を制し優勝

決勝戦＝増田道仁（右）が増田良明（右）を攻める

第18回全日本男子なぎなた選手権大会が、皇后盃前日の12月1日、浦安市運動公園総合体育館メインアリーナにて開催された。大会には、各都道府県や大学から男子選手48名が出場し、覇を競った。

決勝は、増田道仁（兵庫）と増田良明（兵庫）の念願の親子対決となった。試合は子・道仁が父・良明を降し、2度目の優勝となった。3位には加藤大貴（愛知）が入賞した。

大会はトーナメント戦で行われ、試合時間4分間の2本勝負。時間内に勝敗が決しない場合は判定とした（決勝のみ2分1回の延長あり）。

◆準決勝

準決勝には、3年ぶりの優勝を目指す増田道仁（兵庫）、増田良明（兵庫）、小川賢太郎（千葉）と加藤大貴（愛知）が勝ち上がった。

準決勝1試合目は増田（良）対小川。序盤から果敢に攻める増田。小川も前に出ようとするが、増田の鋭い攻撃になかなか前へ踏み出せない。試合中盤、増田が面を決めたと思われたが、旗は一本しか上がらな

3位決定戦＝加藤（右）が小川を攻める

決勝戦＝道仁選手（右）が面を決める

い。そのまま両者、有効な技はなく試合終了。判定は増田に旗が3本上がり、増田の勝利となった。

準決勝2試合目は増田（道）と加藤の対戦。試合開始からわずか20秒、面を防御した加藤へ増田がすねを決め、一本。その後、加藤もすねを仕掛けるも増田は飛び上がって華麗に躱す。そのまま試合は終了し、増田が決勝へ駒を進めた。

◆3位決定戦

加藤大貴　判―　小川賢太郎

連続で技を繰り出す小川に対し、相手の動きを見て攻める加藤。その後も技を打ち込むタイミングを探り合いながら攻撃するも一本にならず、勝負は判定に委ねられる。判定は冷静に試合を進めた加藤に軍配が上がり、3位に決定した。

◆決勝戦

増田道仁　メ―　増田良明

前回3位になって道仁選手が語っていた「父と決勝戦で勝負すると約束しています」という言葉が今回実現した。本大会史上初の親子での決勝戦であり、会場の視線が一気に両者へ注がれる中、試合は開始した。先に動いたのは道仁選手。試合開始から1分50秒、遠間から徐々に間合いを詰め、一瞬手元が緩んだ良明選手に鋭い面を決め、一本。その後、良明選手も道仁選手の隙を見て攻めていくが、有効打突にならない。そのまま試合は終了となり、息子・増田道仁選手が父を降して2度目の優勝を果たした。

◎優勝＝増田道仁選手（兵庫）

「全日本なぎなた選手権に出場してから決勝戦で親子対決をすることが1つの目標になっていました。それが達成でき、非常に嬉しかったです。少し複雑な気持ちにもなりましたが、とても楽しい試合でした。練習する時間が少なかったので、量よりも質を求めた稽古を心がけました。

2019年の世界大会の予選が迫っているのでベストな動きができるように、また世界選手権も親子で出場できるように頑張りたいと思います」

○準優勝＝増田良明選手（兵庫）

「最近は体力がなくなっていたため、試合も緊張していたのですが、準優勝できてよかったです。親子で決勝戦というのは複雑でした。心情としては真剣勝負と日頃から練習の真ん中位でした。ただ、こんな日が来るとは思わなくて本当にいい日になったと感じました。これからも鍛錬していきたいと思います」

▽3位＝加藤大貴選手（愛知）

「本大会に初出場してから15回目になりましたが、ここまで一度もベスト4以上に入れなかったので、本当に嬉しいです。3位決定戦では絶対勝ちたいという思いを残しつつ、のびのびと試合をすることを心がけました。今後の目標は、世界大会で選手として出場できるように頑張っていきたいと思います」

なぎなたという素晴らしい武道を
一人でも多くの人に伝えたい

私の歩んだ なぎなたの道

元全日本なぎなた連盟顧問

徳永 千代子 著

（四六判・上製・252頁）

戦前の薙刀術教員養成所に始まり、戦後の苦難の復興期を経て、現在の隆盛に至るまで、著者自身が歩んだなぎなたの道を振り返りながら、なぎなたの素晴らしさを謳い上げた会心作。なぎなた愛好者のみならず、武道指導者必読の一書。

◇第１章多感な少女時代　◇第２章薙刀術教員養成所　◇第３章卒業　◇第４章なぎなた教師◇第５章全日本なぎなた連盟結成　◇第６章財団法人化　◇第７章体協加盟と国体参加　◇第８章生涯続くなぎなたの道

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携書。

BUDŌ：THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版がついに刊行！ 海外武道修業者・関係者におすすめしたい決定版。

武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）

臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。

贈る言葉

なぎなた範士からのメッセージ

月刊「武道」編集部 編

（四六判・上製・366頁）

全国各地のなぎなた範士25名が、後世のなぎなた人へ贈るメッセージ。近代なぎなたの史料ともなる各範士の歩みを綴った半生記集。

武道伝書を読む

天理大学教授

湯浅 晃 著

（四六判・上製・348頁）

『風姿花伝』、『兵法家伝書』、『五輪書』など、代表的な武道伝書をわかりやすく読み解き、読者のためになるメッセージを贈る。

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に直接インタビュー取材し、武道の良さ、素晴らしさをおもしろく、わかりやすく描く。

なぎなたに夢を馳せて

沖縄県なぎなた連盟会長
国際なぎなた連盟副会長

長濱 文子 著

（四六判・上製・356頁）

沖縄におけるなぎなた成長の道のりを、連盟会長として組織運営・人材育成に携わってきた著者が振り返る。

大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）

傘寿を超えた武道界の先達30名が贈る、後輩への熱きメッセージ。修行時代から現在までの足跡を辿る、後世に残す記録集。

初優勝を果たした丸山城志郎

男子 66kg級決勝＝丸山（右）が巴投で阿部から技有を奪い、初優勝を飾った

男子66kg級

丸山城志郎が初優勝

阿部一二三に前回の雪辱を果たす

GRAND SLAM OSAKA 2018 柔道グランドスラム大阪 2018

昨年11月23日～25日の3日間、大阪府大阪市の丸善インテックアリーナ大阪（大阪市中央体育館）において、1年を締めくくる柔道の国際大会として、柔道グランドスラム大阪2018（主催＝国際柔道連盟、主管＝全日本柔道連盟）が70カ国と地域から男子257名・女子158名の選手が参加し、開催された。

例年東京で開催されている本大会だが、会場である東京体育館が改修工事中のため、大阪での開催となった。大阪での国際大会は2003年の世界選手権大会以来15年ぶり。

日本は金11個、銀8個、銅16個と軽・中量級を中心に健闘した。しかし、男子100kg超級では一人も決勝に上がれず、東京五輪に向けて課題も残す大会となった。

大会は、男女7階級のトーナメント形式。試合はＩＪＦスポーツ・運営規定およびＩＪＦ試合審判規定により行われた。

■男子60kg級

リオデジャネイロ五輪銅メダルで２０１８年世界選手権優勝の髙藤直寿（パーク24）は、初戦となる2回戦でキム・ウォンジン（韓国）に指導3の反則負を喫した。

男子 60kg級決勝＝永山（下）が裏投で技有を奪い、勝利した

決勝は、世界ランク1位の永山竜樹（東海大）とアブラゼ（ロシア）の対決。永山は２０１８グランドスラム・デュッセルドルフで優勝を果たしている。

前半、永山が繰り出した裏投は一本の宣言を受けるも、ビデオ判定により技有となる。永山はその後も気持ちを切らすことなく、技を繰り出し、主導権を握る。再び永山は裏投を仕掛けて技有となるが、このジャッジは、また取り消される。終始、永山が攻勢をかけて試合終了。２年ぶり2度目の頂点に立った。

◎優勝＝永山竜樹選手（東海大）

「投げが決められなかったのは悔しいです。また、髙藤先輩と直接できなかったのは残念ですが、しっかり優勝できてよかったです。どんな相手でも一本をとれるような柔道を目指していきたいです」

■男子66kg級

決勝は阿部一二三（日体大）と丸山城志郎（ミキハウス）の昨年と同じ顔合せ。昨年は阿部が勝利している。直前に妹の阿部詩が連覇を果たしており、会場は兄妹揃っての優勝を疑わない雰囲気に包まれた。しかし、丸山がその阿部に善戦する。巴投を続けて繰り出す丸山。巴投に加えて、内股と大外刈を阿部は警戒する。互いに指導1で延長戦に入った。延長1分過ぎに、丸山は内股を防がれた後、とっさに巴投に移行して技有。阿部の兄妹連覇を阻止して、丸山が初優勝を飾った。

◎優勝＝丸山城志郎選手（ミキハウス）

「決勝では、会場の空気が完全に阿部ワールドみたいでした（笑）。逆に燃えましたね！　意地を出せました。それだけです。自分が主導権を握ることができました。ただ、指導で勝つのはつまらないと思ってました。何としても投げて勝ちたいと考えてました。最後の巴投は狙ったわけではなく、とっさに出たものです。東京オリンピックはここからがスタートです。勝ち続けていきたいと思います」

■男子73kg級

リオ五輪金メダリストの大野将平（旭化成）が登場。大野は大学の修士論文作成を理由に1年以上実戦から退いていたが、復帰戦となった昨年8月のアジア大会で見事に優勝を飾っている。

その大野は1回戦以外は一本勝で準決勝まで勝ち進んだ。対して元世界王者で五輪2大会連続銅メダルの海老沼匡（パーク24）も階級を上げて出場。順調に勝ち進む。

準決勝で大野は立川新（東海大）と対戦。両者は一進一退の攻防を繰り返すが、大野が終盤に鮮やかな内股を決めて勝利した。一方、海老沼はマルゲリドン（カナダ）を腰車と一本背負投の合技で破って、決勝へと進んだ。

決勝は大野対海老沼。ともに柔道の名門私塾「講道学舎」（東京）で育った手の内を知る者同士。大野が右、海老沼が左のケンカ四つ。頭をつけあい火花を散らす両者は、観ている者を釘づけにするような熾烈な争いを展開する。

大野は内股、海老沼は一本背負と得意技を繰り出すが、不発のまま試合は終盤へと差し掛かる。残り15秒、内股を受け止めた大野が上から海老沼を潰した。そのまま、海老沼

男子 73kg級決勝＝大野（左）が変則の隅落で海老沼を退けた

の帯を取り、裏返すような変則の隅落で技有を奪った。大野は執念で海老沼を退け、五輪連覇に向けて、順調に進み出した。

◎優勝＝大野将平選手（旭化成）

「関西に拠点をおいている身ですので、家族、会社、天理大の学生たちの応援が力になりました。感謝したいです。グランドスラム大阪という新しい大会、ニュータイトルを勝ち取りに行きました。今日は我慢強く、集中して戦えたんじゃないかなと思います」

■男子81kg級

2年ぶりの出場となる元世界王者の永瀬貴規（旭化成）は準々決勝でエグティゼ（ポルトガル）に合技一本で敗れた。決勝は佐々木健志（筑波大）と小原拳哉（パーク24）の日本人対決となった。

小原が巴投、一本背負投で攻勢をかけるが、佐々木は、自身の身体を素早く回転させ、背を地に着けないように堪える。延長に入り、佐々木は小原の隅返を躱して崩袈裟固でしっかりと抑え込んだ。そのまま一本を決め、佐々木が勝利を収めた。

◎優勝＝佐々木健志選手（筑波大）

「8月のアジア大会、講道館杯で勝てなくて、悔しい思いをしていたので今回、何としても勝ってやろうと思っていました。内容はまだまだですが、優勝することができて今はホッとしています」

男子 81kg級決勝＝佐々木（上）はしっかり抑えて、勝利を収めた

■男子90kg級

3回戦、リオ五輪金メダリストのベイカー茉秋（日本中央競馬会）がマルジアニ（ジョージア）に浮落で一本を決められて、まさかの敗退。

決勝は向翔一郎（ＡＬＳＯＫ）とファンテンド（オランダ）。多彩な技をもつ向は、ファンテンドの出方を窺いながら攻撃方法を探る。向は相手の釣手をいなして一本背負投を仕掛ける。再び、組手争いから翻って担ぎ技に出る向。意表をつく向の攻撃にファンテンドは翻弄され、終

男子 90kg級決勝＝意表をつく向（下）の攻撃に相手は翻弄される

盤に指導を重ねていく。延長に入り、向がファンテンドを場外際に追い込むと、たまらず場外へ。ファンテンドは3つ目の指導を受けて、向が勝利を収めた。90kg級を制して向は満面の笑みを見せていた。

◎優勝＝向翔一郎選手（ALSOK）

「講道館杯で負けて、ヤバイなと思ってましたが、今回は怖がらずに柔道をやりました。結果が出て本当に良かったです。上手くいかないことが最近多く、いろいろな方々に迷惑をかけてきましたので、少しでも恩返しができていたら嬉しいです。最高の恩返しは東京五輪での優勝です。自分の幼少からの夢でもある五輪優勝を目指して、歩みを止めないで行きたいと思います」

男子100kg級決勝＝ウルフ（左）は終了間際に大内刈の合技一本で、勝利

■男子100kg級

リオ五輪銅メダルの羽賀龍之介（旭化成）は、3回戦でドベルビー（スウェーデン）に一本背負投で技有をとられて、早々に敗退。2017年世界選手権優勝のウルフアロン（了徳寺学園職）は、本調子とはほど遠いものの、接戦をものにして、決勝まで勝ち進んだ。

決勝の相手はカナダのホープで長身のエルナハス。エルナハスは左右の足技で、ウルフを揺さぶる。残り1分、ウルフは安定感のある下半身で相手の足技を受け止める。逆に小外掛でエルナハスをなぎ倒した。これは惜しくも技有にとどまる。しかし、終了間際に大内刈で再び相手をたたき付け、合わせて一本。2018年の世界選手権入賞をのがしたウルフは、重量感あふれる柔道で地力を見せつけて、東京五輪に向けて、再び大きく歩み出した。

◎優勝＝ウルフアロン選手（了徳寺学園職）

「なんとか勝つことができました。今日は全体的に調子は良くありませんでしたが、相手のことをしっかりと見て試合を進めることができました。一流の選手は、どんな状況でもベストコンディションに持っていきますので、自分はまだまだ足らないところがあります」

■男子100kg超級

波乱の展開となった100kg超級。2回戦では、リオ五輪銀メダルで昨年の全日本選手権覇者の原沢久喜がナイダン（モンゴル）に外巻込で技有をとられ、続く小川雄勢（明治大）もリオ五輪100kg級覇者のクルパーレク（チェコ）に巴投を決められて、それぞれ早々に敗退した。

準々決勝では、王子谷剛志（旭化成）がバシャエフ（ロシア）から背負投で技有をとられて、苦杯を嘗めた。

準決勝では、影浦心（日本中央競馬会）が、小川を破ったクルパーレクと対戦。延長戦で腕挫十字固を決められて一本負となった。これで全ての日本人選手は姿を消した。

決勝では、グロル（オランダ）とクルパーレクが対戦し、小内刈の技有でグロルが優勝を決めた。

▽井上康生全日本男子監督

「ホームで行った世界大会であり、100kg超級ではトップ4が出場していました。その中で一人も決勝に上がれなかった現状を我々はしっかりと受け止めねばなりません。

近年は柔道の質というものが変わってきております。昔のように組み合って豪快に技を打ち合う柔道ではなくて、スピーディーでコンパクトな展開のなかにもダイナミックな柔道を求められています。様々な面で変えていかなければいけない部分があると感じました」

女子 48kg級決勝＝渡名喜（左）とムンフバド

■女子48kg級

準決勝、渡名喜風南（パーク24）は、準々決勝で近藤亜美（三井住友海上）を降した遠藤宏美（ＡＬＳＯＫ）を破って、決勝進出を果たした。

決勝は、渡名喜と世界ランク２位のムンフバド（モンゴル）の対決。序盤にムンフバドが仕掛けてきたところに渡名喜は横四方固を決めて一本勝。初優勝を飾った。

◎優勝＝渡名喜風南選手（パーク24）

「自分がやってきたことがそんなに出せなかったので、まだまだ課題があるなと思っています。去年の世界選手権が終わって一度も優勝してなかったので、今はホッとしてます。地道にコツコツとまた頑張りたいと思います」

女子 52kg級決勝＝阿部（右）の袖釣込腰

■女子52kg級

９月に行われたバクー世界選手権で優勝の阿部詩（夙川学院高）が登場。準決勝で阿部は、志々目愛（了徳寺学園職）と対戦した。志々目はバクー世界選手権では決勝で阿部に敗れている。試合開始わずか23秒、阿部は電光石火の内股すかしで志々目を破り、あっさりと決勝へ勝ち進んだ。

決勝は、世界ランク２位の阿部と角田夏実（了徳寺学園職）による日本人対決となった。角田は昨年のアジア大会では圧勝で優勝を飾っている。阿部は角田に直近で３度敗れており、苦手とする相手。「４回負けたら話にならない」と意気込む阿部。普段の、がむしゃらに前に出る柔道は封印して慎重に試合を展開する。前半は互いに指導１。要所では、阿部が角田の巴投を封じながら担ぎ技を仕掛け、角田を指導２まで追いつめる。延長戦に入り、阿部は得意の袖釣込腰で積極的に攻める。互いに指導が入り、角田は３つの目の指導を受け反則負。阿部は４度目の対戦でリベンジを果たした。

阿部は２０１７年の東京大会に続き２連覇を達成。２０１８年の世界選手権と今大会の連続優勝により、全日本柔道連盟の基準を満たし、今年の世界選手権（東京）代表に決まった。

◎優勝＝阿部詩選手（夙川学院高）

「角田選手はずっと勝てなかった相手だったので、すごく嬉しいです。最初から自分のペースで『これは勝てる』という強い気持ちで臨みました。来年の世界選手権に向けてもっともっと強くなりたいと思います」

■女子57kg級

準決勝で、アジア大会を制した玉置桃（三井住友海上）は、昨年の世界選手権覇者の芳田司（コマツ）と対戦。玉置は指導2を受けるものの、試合終了間際に芳田に対して値千金の隅返を決めて、勝利した。

一方の準決勝では、クリミット（カナダ）が接戦の末に舟久保遥香（三井住友海上）から背負投げで一本を奪った。

決勝は、玉置とクリミットの対決。序盤にクリミットが仕掛けた背負投がビデオ判定の結果、技有となる。玉置は攻めあぐね、ポイントを奪えないまま試合は終了。玉置は敗れ、カナダのクリミットが優勝した。

女子57kg級決勝＝玉置（右）は敗れ、クリミットが優勝した

■女子63kg級

準決勝では、土井雅子（ＪＲ東日本）が、リオデジャネイロ五輪金メダリストのトルステニャ（スロベニア）に上四方固で一本勝を決める殊勲を上げた。対して、鍋倉那美（三井住友海上）は能智亜衣美（了徳寺学園職）を、指導3で降している。

決勝は土井と鍋倉の対決。両者決め手に欠けて、後半にそれぞれ指導1を受ける。終盤に土井は得意とする寝技で抑込に入るが決められず、惜しくもここで時間一杯となってしまう。そのまま延長戦へと突入した。仕切り直しとなった土井は、延長戦でもやはり寝技で攻勢をかける。両者に2つ目の指導。その後も土井が寝技で攻め立て、鍋倉に3つ目の指導が入り、反則負け。土井は7分に及ぶ試合を制して、初優勝に輝いた。

女子63kg級決勝＝土井（右）が７分に及ぶ試合を制した

◎**優勝＝土井雅子選手（ＪＲ東日本）**

「やっとこのメダルを手にすることができました。大会では、初戦から強い選手ばかりで一戦一戦が決勝だと思って戦いました。決勝は勝ったのですが、寝技で抑え込むチャンスを逃してしまったのが悔しいです。ここからが本番ですので、再スタートを切りたいと思います」

■女子70kg級

昨年の世界選手権で連覇を果たした新井千鶴（三井住友海上）が危なげなく駒を進める。準決勝では大野陽子（コマツ）を破ったピノ（フランス）から、延長約2分でスタミナ切れながらも力を振り絞った支釣込足を技有として、決勝に進出した。

決勝はベルンホルム（スウェーデン）と対戦。中盤、新井は相手を巻き込み、隅落で技有をとる。そのまま寝技に持ち込もうとするがベルンホルムに躱された。その後も新井は足技を主としてプレッシャーをかけ

女子 70kg級決勝＝新井（左）が足技を主として攻め立てる

続けて、試合は終了。

新井は去年の雪辱を果たして、金メダルを勝ち取った。また、全日本柔道連盟の基準を満たして、今年の世界選手権（東京）代表に決まった。

◎優勝＝新井千鶴選手（三井住友海上）

「２０１７年は決勝で敗れて悔しい思いをしたので、この１年間やってきたことを全て出し切ろう、必ず勝って次に繋げようと思って戦いました。また今回は、世界選手権の内定とか決勝戦とかは考えずに、目の前の相手に勝つことだけに徹しました。

優勝できて、形では17年のリベンジができましたが、内容はまだまだ改善すべき点があります。取るべき大会でしっかり取っていくというのが今の私には必要なのですし、取ったら他に何が必要か考える期間が作れるので、そういった意味でもよかったと思います。18年はまだまだ改善点を調整している年でした。19年の世界選手権でしっかり３連覇して、東京五輪で金メダルを確実に取っていけるように、進化、強化していきたいと思います」

■女子78kg級

決勝は、準決勝で世界女王の濵田尚里（自衛隊体育学校）を降した梅木真美（ＡＬＳＯＫ）と佐藤瑠香（コマツ）の対決。ケンカ四つで足技を互いに掛け合い、力のこもった攻防を両者は展開する。中盤、佐藤は投技から寝技に持ち込もうとするが、ここは梅木はガッチリと〝亀〟になる。負けじと低い体勢の佐藤を潰しにかかる梅木。両者からは、指導ではなく一本を決めて勝つという気迫

女子 78kg級決勝＝佐藤（上）が懸命に抑えて一本

が感じられる。残りわずか、佐藤は、足技で梅木を崩して横四方固にかかる。必死に逃れようとする梅木だが、佐藤が懸命に抑えて一本。佐藤が78kg級を制した。

◎優勝＝佐藤瑠香選手（コマツ）

「ホッとしています。とにかく優勝できて良かったです。大野陽子先輩にはいつも稽古をつけていただいて、今日も試合後なのに打ち込みとか乱取とか稽古につきあっていただいて、絶対に頑張らなければいけないと思いました」

丸善インテックアリーナ大阪の外観

■女子78kg超級

準決勝では昨年皇后盃優勝の素根輝（南筑高）と昨年世界選手権覇者の朝比奈沙羅（パーク24）が対決。終盤、素根が背負投を放ってこれが技有となった。素根は朝比奈に競り勝ち、決勝に進出した。

決勝では、稲森奈見（三井住友海上）を破ったオルティス（キューバ）と対戦。素根は指導3の反則負で、オルティスが優勝した。

女子 78kg超級決勝＝素根（左）は、指導３の反則負

心技体 人を育てる総合誌
月刊 武道

【大会結果】

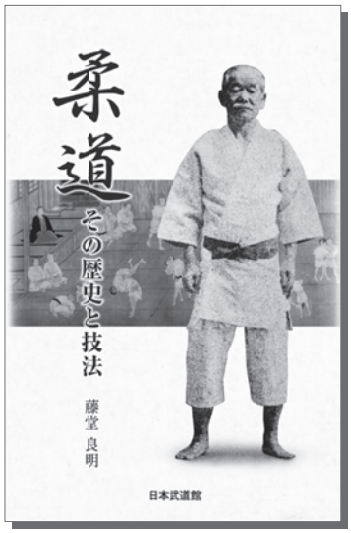
◆男子	優勝	2位	3位	日本選手
60 kg級	永山竜樹（東海大）	アブラゼ（ロシア）	大島優磨（旭化成） キム ウォンジン（韓国）	志々目徹（了徳寺学園職）＝５位 髙藤直寿（パーク 24）＝２回戦敗退
66 kg級	丸山城志郎（ミキハウス）	阿部一二三（日本体育大）	グリゴリヤン（ロシア） ヨンドンペレンレイ（モンゴル）	藤阪太郎（大阪府警）＝５位 田川兼三（筑波大）＝２回戦敗退
73 kg級	大野将平（旭化成）	海老沼匡（パーク 24）	立川　新（東海大） マシアス（スウェーデン）	野上廉太郎（筑波大）＝3 回戦敗退
81 kg級	佐々木健志（筑波大）	小原拳哉（パーク 24）	永瀬貴規（旭化成） アルバイラク（トルコ）	佐藤正大（自衛隊体育学校）＝３回戦敗退
90 kg級	向翔一郎（ALSOK）	ファンテンド（オランダ）	村尾三四郎（桐蔭学園高） トリッペル（ドイツ）	ベイカー茉秋（日本中央競馬会）＝３回戦敗退 田嶋剛希（筑波大）＝２回戦敗退
100 kg級	ウルフ アロン（了徳寺学園職）	エルナハス（カナダ）	飯田健太郎（国士舘大） フォンセカ（ポルトガル）	羽賀龍之介（旭化成）＝３回戦敗退 熊代佑輔（ALSOK）＝２回戦敗退
100 kg超級	グロル（オランダ）	クルパーレク（チェコ）	影浦　心（日本中央競馬会） バシャエフ（ロシア）	王子谷剛志（旭化成）＝７位 原沢久喜=2 回戦敗退、小川雄勢（明治大）=2 回戦敗退
◆女子	優勝	2位	3位	日本選手
48 kg級	渡名喜風南（パーク 24）	ムンフバト（モンゴル）	遠藤宏美（ALSOK） 近藤亜美（三井住友海上）	芳田　真（比叡山高）＝２回戦敗退
52 kg級	阿部　詩（夙川学院高）	角田夏実（了徳寺学園職）	志々目愛（了徳寺学園職） ブシャール（フランス）	前田千島（三井住友海上）＝５位
57 kg級	クリミット（カナダ）	玉置　桃（三井住友海上）	舟久保遥香（三井住友海上） コン ユジョン（韓国）	芳田　司（コマツ）＝５位
63 kg級	土井雅子（JR 東日本）	鍋倉那美（三井住友海上）	能智亜衣美（了徳寺学園職） 田代未来（コマツ）	
70 kg級	新井千鶴（三井住友海上）	ベルンホルム（スウェーデン）	新添左季（山梨学院大） ピノ（フランス）	大野陽子（コマツ）＝５位 田中志歩（環太平洋大）=2 回戦敗退
78 kg級	佐藤瑠香（コマツ）	梅木真美（ALSOK）	濵田尚里（自衛隊体育学校） アントマルチ（キューバ）	髙山莉加（三井住友海上）＝２回戦敗退
78 kg超級	オルティス（キューバ）	素根　輝（南筑高）	朝比奈沙羅（パーク 24） 稲森奈見（三井住友海上）	秋場麻優（環太平洋大）＝１回戦敗退

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 **藤堂 良明** 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。

武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた〝武道としての柔道〟を見失わないでいただきたいと願うものである。（本書「あとがき」より抜粋）

目 次

第一章 組討ちの起こりと技法
体術の起こりと技法
組討ちの体系化と技法

第二章 柔術諸流派の歴史と技法
竹内流腰廻
関口新心流柔術
起倒流柔術
起倒流柔道
直信流柔道
真之神道流柔術
天神真楊流柔術

第三章 講道館柔道の歴史と技法
講道館柔道の創設と技法
嘉納治五郎の乱取開発
講道館柔道の行事と整備
警視庁武術大会の勝利と技法
学校体操への柔道導入の試み
学校における柔道普及の実態
高専柔道の起こりと技法
嘉納治五郎の他武道への接近
精力善用国民体育の創案と技法
全日本柔道選士権大会の開催と技法

第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法
第二次大戦中の柔道界と技法
第二次大戦後の柔道禁止と復活
格技柔道から武道柔道へ
女子柔道の競技化と技法

第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題
柔道技法の変遷と特徴
柔道の国際的普及と発展
段位制度の国際比較
柔道の国際化と課題

編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中！

公益財団法人講道館道場指導部課長

向井幹博

（むかい　みきひろ）著

役に立つ

少年柔道指導法

収録時間170分を超える
解説DVD付属！

A5判・並製・DVD付・414頁・本体2400円＋税

少年柔道指導の現場で役に立つ好評連載を単行本化。付録のDVDには、写真では伝わりにくかった部分を映像で紹介。

また、少年柔道が抱える様々な問題点を、講道館所蔵の柔道文献から、解決の糸口を探っていく。

〈目次〉

第1部　解説編
第一章　少年柔道は柔道指導の原点
第二章　基本動作の指導
第三章　技の指導
第四章　教育の中の柔道
第五章　指導の工夫
第六章　少年規定の変遷と問題点
第七章　柔道の安全指導
第八章　東日本大震災への講道館の対応
第九章　少年柔道の未来のために

第2部　実技編
第一章　礼法の指導
第二章　受け身の指導
第三章　基本動作の指導
第四章　トレーニング法の指導
第五章　柔道の練習法
第六章　投技の指導
第七章　固技の指導

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

男子団体組手

女子団体組手

国士舘大が悲願の初優勝

近畿大が15年ぶり8回目の優勝

第62回全日本大学空手道選手権大会

男子団体組手競技決勝・大将戦＝
国士舘大・山本陸（左）がカウンターの上段蹴りで一本を奪う

第62回全日本大学空手道選手権大会（主催＝全日本学生空手道連盟）が昨年11月18日、日本武道館で開催された。大会は全て団体戦で行われ、男子組手、女子組手、男子形、女子形の4部門で熱戦が繰り広げられた。

男子組手は、国士舘大が帝京大を破り、創部以来の悲願であった初優勝を果たした。女子組手は、近畿大が国士舘大に勝利し、15年ぶり8回目の優勝を飾った。

男子形では同志社大が初優勝、女子形は帝京大学が9連覇を達成した。

■組手競技

試合は、男子が5人制、女子が3人制のトーナメント方式で行われた。試合時間は、男女ともに2分とし、6ポイント差が生じた時点で試合終了とした（1・2回戦は1分半、男子のみ準々決勝以降は3分、8ポイント差が生じた時点で試合終了）。初戦を除き、団体戦の勝敗が決定した時点で競技終了とした。

男子

64校が出場。準決勝は、帝京大と京都産業大が対戦。帝京大が先鋒から中堅まで三連勝で一気に勝負をつけ、京都産業大に完勝。帝京大が京都産業大の3連覇を阻止して決勝進出を決めた。

準決勝第2試合は、国士舘大と法政大が対戦。国士舘大が近畿大に勝利し、勢いに乗る法政大を3―0で一蹴し、決勝に駒を進めた。

男子組手競技決勝・先鋒戦＝
国士舘大・渡邉健太（奥）が上段突きで先制する

男子組手競技決勝・中堅戦＝
国士舘大・辻田誠一郎（右）が上段突きで攻める

《決勝》

国士舘大　3―2　帝京大

先　渡邉健太○反3―3　山本匡悟
次　本池頼樹　0―9○中野壮一朗
中　辻田誠一郎○　3―1　中村良太
副　大橋里央　3―5○中澤弘輝
大　山本　陸○　3―0　上条優太

先鋒戦は国士舘大・渡邉健太と帝京大・山本匡悟の対戦。先に試合の主導権を握ったのは、渡邉。渡邉は軽快なステップから上段突きと中段突きを決め、ポイントを連取する。渡邉は、その後も蹴り技を織り交ぜ攻め続ける。しかし、山本も鋭い出足から上段突きでポイントを奪うなどし、3―3の同点のまま試合時間終了。渡邉が先取のアドバンテージを活かして国士舘大が先勝する。

次鋒戦は国士舘大・本池頼樹と帝京大・中野壮一朗が対戦した。今大会、絶好調の中野がいきなり見せる。中野が本池から有効、有効、一本と3連続で上段突きを決め、5―0と一気に突き放す。中野は、その後も上段蹴りを決め、終始攻め続ける。中野が9―0の完勝で対戦スコアをタイに戻した。

中堅戦は国士舘大・辻田誠一郎と帝京大・中村良太が対戦。互いに序盤から積極的に攻めるもポイントが奪えない。膠着状態が続いたが、試合中盤、互いの上段突きが同時に決まり、両者に1ポイントが入る。その後は、辻田が上段突きを2連続で決め、3―1で中村に競り勝つ。国士舘大が2勝1敗とし、優勝に王手をかける。

副将戦は、一気に優勝を決めたい国士舘大・大橋里央と、勝って大将戦に望みを繋ぎたい帝京大・中澤弘輝が激突。試合はいきなり動く。試合開始直後に大橋が上段突きを決める。すぐさま中澤が上段蹴りで一本を決め、逆転に成功する。さらに中澤は上段突きを決め、リードを広げる。大橋も必死に食らいつき、中段突きと上段突きで有効を奪い、1点差まで詰め寄る。中澤は5―3で大橋の追撃を振り切って勝利し、帝京大は2勝2敗のイーブンに戻した。

国士舘大の初優勝か、帝京大9年ぶりの王座奪還なるか。国士舘大の大将は3年・山本陸。対する帝京大は4年の上条優太。上条は上段突き、中段蹴りの連続技で山本にプレッシャーをかける。山本は思うように攻め込めない。上条が左上段突きを出した次の瞬間、山本がカウンターの右上段蹴りで合わせて一本を奪う。完全に試合のペースを握った山本は攻め続ける。上条は最後まで諦めずに攻めるも、ポイントを奪えないまま3―0で試合終了。

国士舘大が創部以来の悲願であった初優勝を手にした。

◎優勝＝国士舘大・亀山歩監督

「練習環境が整い、集中して稽古に取り組むことができました。

決勝戦は、選手が自信を持って戦ってくれましたし、個々の良いところが十分に出せたと思います。大将戦までもつれましたが、選手を信じていました。OBを含め、全員で力を合わせ、優勝することができました。今日は全員がMVPです。

若いチームなので伸びしろがたくさんあります。これからは練習と試合を積み重ねていって、もっと強いチームを目指します」

女子組手競技決勝・先鋒戦＝
近畿大・齋藤彩夏（左）が上段突きで攻める

女子組手競技決勝・大将戦＝
近畿大・日下部萌笑（左）が先取する

女子

55校が出場。準決勝に駒を進めたのは帝京大、近畿大、国士舘大、駒澤大の4校。

準決勝では昨年優勝の帝京大と準優勝の近畿大が対戦。近畿大は選手起用が見事に的中し、2―0のストレートで勝利。近畿大は昨年決勝で敗れた雪辱を果たし、決勝進出を決めた。もう一方では、国士舘大と駒澤大が対戦し、国士舘大が2―1で勝利し、19年ぶりの決勝進出を果たした。

《決勝》

近畿大　2―1　国士舘大
先　齋藤彩夏　○3―0　岩瀬菜緒
中　久住呂有紀　2―3○菊池瑞希
大　日下部萌笑○3―0　今井りか

先鋒戦は、世界選手権大会日本代表に選出された近畿大・齋藤彩夏と国士舘大・岩瀬菜緒の対戦。齋藤が試合開始早々に重点的に練習してきたという上段突きでポイントを上げる。リードを許した岩瀬は、齋藤との距離を詰め、中段突きを連発する。しかし、齋藤は岩瀬が前に出てきたところにカウンターの上段突きを決め、リードを広げる。齋藤が上段蹴り、岩瀬が上段突きと互いに得意技で攻めるもポイントにはならない。齋藤が終始試合をコントロールし、近畿大に先勝をもたらした。

中堅戦は近畿大・久住呂有紀と国士舘大・菊池瑞希が対戦。先制したのは久住呂。両者同じタイミングで繰り出した上段突きだったが、久住呂の突きが一瞬早く決まったと判定され、久住呂がポイントを奪う。追い詰められた菊池は上段蹴りを中心に積極的に前に出る。菊池は試合中盤に、上段蹴りのフェイントから上段突きでポイントを奪い、試合を振り出しに戻す。その後は互いが上段突きでポイントを上げ、スコアは2―2に。残り時間15秒のところで菊池の上段突きが決まり、勝負あり。菊池が3―2で接戦を制し、国士舘大が同点に追いつく。

大将戦は、近畿大・日下部萌笑と国士舘大・今井りか。両者に勝負の行方が委ねられた。序盤から日下部が勝負に出る。日下部が開始早々に上段突きで先制する。勢いに乗った日下部は上段突き、中段突きと次々に技を繰り出す。焦りの色が見える今井。日下部は、今井の一瞬の隙を逃さなかった。日下部は今井が不用意に繰り出した中段蹴りに上段突きを上手く合わせ、ポイントを重ねる。日下部は、最後まで集中し、ポイントを奪われることなく勝利。

近畿大が国士舘大に2―1で勝利し、15年ぶり8回目の優勝を飾った。

◎優勝＝近畿大・吉田康弘監督

「女子の優勝は15年ぶりです。昨年の敗戦を受けて、チャレンジャーとして臨んだことがよかったと思います。この1年はより実戦に近い形で質の高い練習を行うことができました。OBが海外で学んだことを学生に指導してもらいながらやってきた成果が実りました。

これからは追われる立場です。勝ち続けるためには、技術的な部分はもちろん、精神的にも成長していかなければならないと思っています。守るのではなく、攻めの姿勢を貫きたいと思います」

男子形競技・優勝＝同志社大（アーナン）

女子形競技・優勝＝帝京大（ウンスー・分解）

■形競技

3名編成により、予選は指定形の採点方式で行われ、上位4校が決勝トーナメントに進出。決勝戦のみ分解までを6分間で演武し、旗判定で勝敗を決した。

男子

15校が出場。予選上位4チームは得点順に帝京大、同志社大、国士舘大、駒澤大となった。

準決勝1試合目は、昨年優勝の帝京大と駒澤大が対戦。帝京大はソーチン、駒澤大はガンカクを演武。駒澤大が旗判定3―2で帝京大に勝利した。この瞬間、10年間続いた帝京大の大会連覇が途切れた。

準決勝2試合目は、同志社大と国士舘大が対戦。同志社大はスーパーリンペイ、国士舘大はゴジュウシホショウを演武した。同志社大が旗判定3―2で国士舘大を降し、決勝進出を果たした。

決勝は駒澤大と同志社大による初優勝をかけた対戦。駒澤大がゴジュウシホショウを、同志社大がアーナンを演武。判定の結果、4―1で同志社大が初優勝を飾った。

女子

15校が出場。決勝トーナメントに進出したのは、8連覇中の帝京大と駒澤大、国士舘大、同志社大の4校。

先に帝京大対駒澤大の準決勝戦が行われ、帝京大はゴジュウシホショウを、駒澤大はゴジュウシホダイを選択。旗判定5―0で帝京大が決勝進出を決めた。

続いて、同志社大と国士舘大が対戦。両校アーナンを演武し、4―1で同志社大に軍配が上がった。

決勝戦では帝京大は得意のウンスーを選択。対する同志社大はクルルンファーで挑む。帝京大に5本の旗が上がり完勝。帝京大学は、大会連勝記録を「9」に伸ばした。

◎優勝＝帝京大・岡本沙織監督

「このチームは、国際舞台で活躍してきましたが、今日はあくまでも『学生大会』であることを意識させました。

決勝は百点満点以上の渾身の形を打ってくれました。

4年生の2人が卒業するので来年に向けて、準備を進めていきたいと思います」

【大会結果】

■組手競技

◇男子

優　勝＝国士舘大
準優勝＝帝京大
第3位＝京都産業大、法政大

◇女子

優　勝＝近畿大
準優勝＝国士舘大
第3位＝帝京大、駒澤大

■形競技

◇男子

優　勝＝同志社大
準優勝＝駒澤大
第3位＝帝京大、国士舘大

◇女子

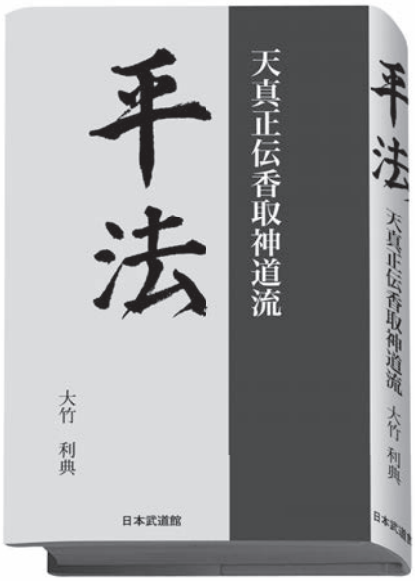
優　勝＝帝京大
準優勝＝同志社大
第3位＝駒澤大、国士舘大

心技体 人を育てる総合誌
月刊 武道

好評発売中

平法
天真正伝香取神道流

天真正伝香取神道流 師範
大竹利典（おおたけりすけ） 著



（四六判・上製・296頁）

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。

さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

目 次

序　章　香取神宮御由緒
第一章　歴史篇
　第一節　経津主大神の真伝、「天真正伝香取神道流」
第二章　修行篇
　第一節　入　門
　第二節　林先生に師事
　第三節　香取神道流最初の異国の門弟
　第四節　流祖生誕六百年記念祭
第三章　技術篇
　第一節　剣　術
　第二節　居合術
　第三節　棒術、薙刀術、槍術、手裏剣術
　第四節　柔　術
　第五節　忍　術
第四章　軍学兵法篇
　第一節　遁甲術
　第二節　刀剣と密教
第五章　思想篇―全ての修行者へ
　第一節　修行者の心得
　第二節　兵法は平法なり
　　―平和を願う偉大なる教え

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

今、なぜ武道か

―文化と伝統を問う―

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）

武道における身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）

（B5判・上製・箱入・462頁）

古流武術研究家

横瀬 知行 著

日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介！

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。

第２回都道府県対抗弓道大会

鹿児島県が優勝を飾る

決勝＝鹿児島県の４射目（左から＝野﨑、古永、吉井、濵田、中出口の各選手）

第２回都道府県対抗弓道大会（主催＝全日本弓道連盟）が11月24日に日本武道館で開催された。今年で２回目となる本大会では各都道府県弓道連盟会長から認証を受けた全都道府県の47チームが参加し、覇を競った。試合は、決勝で鹿児島県が昨年２位の東京都を16―14で降し、優勝を飾った。

◆

競技は、団体による的中制（坐射・直径36㎝霞的）の近的競技として行われた。チーム編成は５人立（うち50歳未満２名、50歳以上３名、また、うち１名が女性選手）、各自４射１回で予選が行われた。その後、的中数の多い上位16チームが決勝トーナメントへ駒を進め、覇を争った。総的中数の多いチームを勝ちとし、同中の場合は各自１射を行った。それでも決着がつかない場合は勝敗が決するまで繰り返す。

決勝＝鹿児島県の１射目（中出口選手）

◇予選

予選では、広島が17中で１位通過、鹿児島・茨城・福岡・神奈川が16中で２位通過、長野・徳島が15中で３位通過、石川・山口が14中で４位通過と、ここまで９チームが決勝

トーナメントへ進出を決めた。そして、残り7枠をかけて予選で13中の12チームにより、同中競射が行われた。鳥取・東京・秋田・静岡・富山・福島・栃木が勝ち抜け、上位16チームが決定となった。

◆

◇決勝トーナメント

決勝トーナメントに入り、徳島は1回戦で石川を20―14と全員皆中で降し、続く2回戦で昨年度優勝の静岡と対戦し、13中同士で射詰を行い、結果3―1で破り準決勝へ。同ブロックの鹿児島は1回戦で秋田に19―15、2回戦で富山に18―14と安定した射型を見せ、勝利。

別ブロックでは、栃木が1回戦で広島を18―13、2回戦で福島を17―13で破り、準決勝へ。そして東京が、1回戦で山口を17―16で、2回戦で茨城を15―13で降し、準決勝残り1枠を見事勝ち進んだ。

◇準決勝

鹿児島と徳島の対戦。1射目から3射目まで鹿児島は計3つ失中、徳島は計4つの失中となる。4射目、徳島は5人中2人が失中し、計14中となる。対して鹿児島は5人全員が的中し、計17中。抜群の安定感で鹿児島が決勝進出へ。

2組目は昨年2位の東京と栃木の対決。1射目から3射目まで東京は2つ失中、栃木は5つ失中となる。追いつきたい栃木は4射目で全員的中させ、計15中で終了。対する東京は1人失中するも計17中で終え、2年連続の決勝進出を果たした。

◇決勝

決勝戦は、ここまで安定した射を見せている鹿児島と今年こそ優勝を勝ち取りたい昨年2位の東京の対戦。1射目、鹿児島は5人が全員的中とし、好調な滑り出しを見せる。対する東京は2中。2射目、鹿児島・東京共に3中する。3射目、鹿児島はまたも全て中てて5中とする。しかし、東京も負けじと全員的中。勝負は4射目に委ねられる。運命の4射目、鹿児島は3中の計16中で競技を終えた。対して東京も2つ失中の3中となり、鹿児島が16―13で勝利。鹿児島が嬉しい初優勝を飾った。

決勝＝鹿児島県の4射目（古永選手）

決勝的中数

鹿児島県	野﨑　修	○	○	○	○	4
	古永　恭司	○	○	○	○	4
	吉井　美穂	○	×	○	○	3
	濵田　藏人	○	×	○	×	2
	中出口正幸	○	○	○	×	3

東京都	石田　桃子	×	○	○	○	3
	草場　光宣	○	×	○	○	3
	畝本　孝志	○	○	○	×	3
	竹内　妙子	×	×	○	×	1
	川﨑　良典	×	○	○	○	3

◎優勝＝鹿児島県・中出口正幸（なかでぐちまさゆき）選手兼監督

「チーム編成に関しては、ぶっつけ本番で試合に臨みました。どの選手も国体経験者、または県大会の優勝者でしたので自分が足を引っ張らなくてよかったなという気持ちです。試合の時は、的に中てたいという気持ちよりも、自分の気をつけなければならない部分を忠実にできればいいなと考えていました。今後は2年後の鹿児島国体に向けて、今の勢いで優勝できたらいいなと思います」

◇大会結果

優　勝＝鹿児島県
準優勝＝東京都
3　位＝徳島県、栃木県
5　位＝静岡県、富山県、福島県、茨城県

好評発売中

伝えたい日本のこころ

絵と文　中村　麻美（なかむらまみ）

Ｆ４判・上製・98頁・定価（本体2700円＋税）

中村麻美（なかむら・まみ）画家・挿画家。三重県津市生まれ。県立津西高校、津田塾大学卒。大学在学中、日本画教室（田中峰雪氏に師事）にて作画の基礎を学ぶ。英語個人教授業、第十八代ミス日本グランプリ、ＮＨＫＢＳニュースキャスター、絵本翻訳業を経て、絵画を志す。大和草、茶花などを題材とした日本画の本画を制作し、書籍、雑誌、新聞、テレビ番組などで歴史もの、武人画、創業者などの挿画を手がける。また、原作新聞小説挿画を描いたＮＨＫ大河ドラマ『天地人』放映の平成十九年以降は、歴史上の人物の本画作品制作にも新境地を開いている。代表作に〝天地人丸紋絵巻〟（兼続お船ミュージアム所蔵）、「斎王」（三重県立斎宮歴史博物館所蔵）など。

月刊「武道」の美しいカラー表紙絵の中から45点を精選。岩絵具で描いた日本画と解説文で「日本のこころ」をお届けします。

「ひとに愛されたい、必要とされたい、社会をよくするため役立ちたい。よき人間でありたい、そしてみんなが幸せであってほしい」――こうした万国共通の願い、祈りを育て、磨くためにも、確かな手がかりとなるすばらしい逸話ばかりです。（本書「あとがき」より）

目　次

一　かしこい小僧さん
二　ひよどり越え
三　天の石屋戸
四　巌流島の決闘
五　太田道灌と少女の歌
六　三本の矢の教え
七　山中鹿介―我に七難八苦を与えたまえ
八　良寛さまと筍
九　民を慈しむ仁徳天皇
十　中江藤樹―母への薬
十一　夫の危機を救う弟橘媛
十二　良子斎王―別れの御櫛
十三　桜井駅の別れ
十四　八俣の大蛇
十五　川中島の戦い―謙信と信玄
十六　紅梅内侍と鶯の宿
十七　新羅三郎義光―笙の秘曲を授ける
十八　小松姫―夫の居城を守りぬく
十九　青の洞門
二十　鍋島直茂と接ぎ木
二十一　小林虎三郎―米百俵の精神
二十二　島津義弘―関ヶ原敵中突破
二十三　光明皇后―千人のからだを洗う
二十四　城戸俊三―勝利を捨てて愛馬を救う
二十五　松坂の一夜
二十六　柳に飛びつく蛙
二十七　称名寺『青葉の楓』
二十八　神武天皇ご東征
二十九　本多忠朝とサンフランシスコ号
三十　つるべの朝顔
三十一　野中兼山―海に捨てたはまぐり
三十二　鉢の木
三十三　因幡の白うさぎ
三十四　堪忍のわび証文
三十五　橘曙覧『独楽吟』
三十六　南総里見八犬伝
三十七　吉田松陰の志
三十八　鳥居強右衛門の勇気
三十九　明智光春―誉れの湖水渡り
四十　赤穂義士の討ち入り
四十一　頼朝を助けた梶原景時
四十二　真田幸村―大坂の陣
四十三　天照大御神と美し国・伊勢
四十四　和田勇―祖国にオリンピックを招致
四十五　長岡花火『白菊』
あとがき

編集・発行　公益財団法人日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

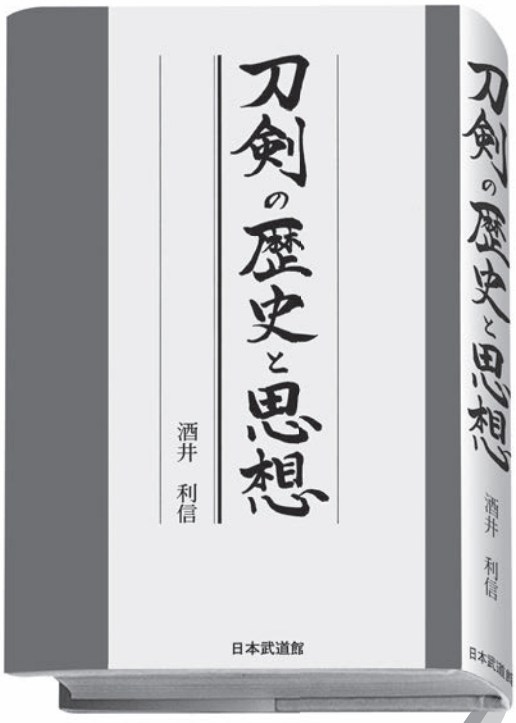
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

◎好評発売中

刀剣の歴史と思想

筑波大学教授　酒井利信　著

四六判・上製・346頁・本体2400円＋税



刀剣を単なる武器としてではなく、神聖なものとして捉える思想とは何か―

日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話、平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文献を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

題字揮毫―鹿島神宮　鹿島則良　宮司

目　次

序　章
第一節　探求の旅をはじめるにあたって
第二節　刀剣の歴史
第一章　刀剣思想の源流
第一節　古代中国の宝剣伝説　太阿の剣
第二節　干将莫耶の宝剣伝説
第三節　高祖の斬蛇剣
第四節　道教と剣
第五節　古代朝鮮の刀剣思想
第二章　神話的イメージの形成
第一節　神話的世界の形成と剣神の誕生
第二節　天より降る剣　師霊剣
第三節　天地を繋ぐ剣　草薙剣
第三章　信仰のなかの刀剣思想
第一節　祀る剣　祀られる剣
第二節　辟邪の呪剣
第三節　うけいの呪術と剣
第四節　修験道と剣
第四章　中世における刀剣思想
第一節　三種の神器の不思議
第二節　『平家物語』にみる三種の神器
第三節　『太平記』が語る草薙剣像
第五章　近世剣術における刀剣思想
第一節　剣術伝書に語られる日本神話
第二節　新當流にみる霊剣の技術
第三節　示現流にみる心の利剣
第四節　近世剣術における刀剣思想の展開
第六章　近現代における刀剣思想
第一節　近代以降の刀剣思想
第二節　古代と現代を繋ぐ刀剣
～鹿島神宮日本刀奉納鍛錬～
終　章　～稽古照今～

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

2020 東京五輪への道
第 24 回世界空手道選手権大会

女子個人形・準優勝＝清水希容

男子個人形・優勝＝喜友名諒

2年に一度の空手道世界一決定戦、「第24回世界空手道選手権大会」（主催＝世界空手連盟（以下、WKF））が11月6日～11日、WKF本部のあるスペイン・マドリードで開催された。139の国と地域から1200名を超える選手が出場する中、空手道が2020東京オリンピックへの追加種目となって以降、最大規模の予選となった。

16種目の競技が行われ、日本は4種目で金、4種目で銀、2種目で銅、計10個のメダルを獲得、メダル獲得数第1位の成績を残した。ここでの結果が、オリンピック出場への大きな岐路になる。五輪への夢が、マドリードを駆け抜けた。

■形競技

◇男子個人

世界選手権2連覇中の王者・喜友名諒（劉衛流龍鳳会）が、全試合5―0で優勝し、3連覇の金字塔を達成した。

決勝は、地元スペインの英雄・ダミアンとの対戦。前回2016年の世界選手権の決勝と同じカードになった。先に演武するダミアン。得意の形、チャタンヤラクーサンクーを演武。ジャンプや二段蹴りなどのダイナミックさは、スペインの観衆をヒートアップさせた。

その雰囲気の中で演武を始める喜友名。だが一気に、雰囲気を変えた。アーナンダイのキレのある技の一つ一つが、力強く繰り出されていく。演武の前半だけで、勝負ありとなった。演武を終えると、次々と観衆が立ち上がり、拍手を送っていた。

全戦5―0の圧勝・完勝。スペインで、喜友名諒のアーナンダイが、スタンディングオベーションに包まれた。

◇女子個人

女子個人形は、世界選手権2連覇中の清水希容（ミキハウス）と、世界ランク1位をひた走るサンドラ（スペイン）の決勝となった。

決勝、先に演武するのはサンドラ。地元スペインの観衆の声援を受け、チャタンヤラクーサンクーを演武。持ち味のパワーを発揮、観衆も

男子団体形・優勝＝日本（左から喜友名諒、上村拓也、金城新）

女子団体形・優勝＝日本（左から武儀山舞・平紗枝・石橋咲織）

後押しし、より力強さを増していく。安定した運足、しっかりと力を出せた演武であった。

そして清水、同じく勝負の形・チャタンヤラクーサンクー。序盤こそリズムが速くなって技が小さくなってしまう部分が見えたが、しっかりと持ち直す。判定は、赤旗がわずかに1本多く、3―2で世界選手権新女王・サンドラが誕生した。清水自身が最も好きな舞台と語る世界選手権での敗戦。しかし、2020年に向けて、再び彼女の進化のきっかけとなることを期待する。

◇男子団体

男子団体形は、喜友名諒（劉衛流龍鳳会）、金城新（同）、上村拓也（同）チームが世界選手権2連覇をかけて挑み、予選の全試合を5―0の完勝で勝ち上がった。

決勝は、地元のスペインとの対決。日本はアーナンダイを演武。会場はスペインへの応援一色になったが、「自分達が沖縄で稽古している技を出せば、会場も自分達のペースに乗ってくれるだろうなと思って、特に分解では、極めるところはしっかり極められて、自分達の形が打てました」（喜友名）。結果、5―0の完勝となった。

◇女子団体

女子団体形のメンバーは平紗枝（帝京大学4年）、武儀山舞（同4年）、石橋咲織（同1年）の3名。

初戦の2回戦、3回戦は5―0の完勝。準決勝では前回大会銅メダルのトルコチームを4―1で降すなどし、決勝へ駒を進めた。

決勝は、男子と同様に地元・スペインとの対決。日本チームのウンスは、十八番の得意形。地元スペインはパイクーを選択。分解ではスピードを維持しつつ、パワーを全面に出し切り、5―0で完勝した。総合力でスペインを上回り、初の世界選手権出場で世界王者となった。

■組手競技

◇男子-60kg級

男子組手-60kgは、日本の佐合尚人（高栄警備保障）が決勝に進出し、残り4秒までリードするも2―5で敗れ、惜しくも銀メダルとなった。

喜友名諒選手（左）と恩師・佐久本嗣男氏

◎師に並ぶ、世界3連覇　喜友名諒

世界選手権を完勝した喜友名。それでも喜友名は、2020年のオリンピックを目指し、より良い演武を目指すことを掲げ、気を引き締めている。

そして今回の世界選手権3連覇は、師・佐久本嗣男先生の現役時代の記録に並ぶもの。佐久本先生は「師を超える選手を育ててこそ、指導者の役目。そのために精一杯私も努めたいですし、彼ならやれると信じています」と意気込んだ。

決勝の相手は、10月の国際大会1回戦で敗れたアンジェロ（イタリア）。試合は2―2で迎えた残り4秒、佐合が前に出たところをアンジェロの上段蹴りが決まって、そのまま試合が終了。「オリンピックに向けて、これからも練習に励んでいきたい」と佐合は爽やかに語った。

◇男子-67kg級

全種目中最多の出場人数を誇った男子組手-67kg、個人としては2大会ぶり、団体も含めれば5大会連続出場を果たした篠原浩人（しのはらひろと）（マルホウ）。今大会は3回戦でセルビア選手に敗れた。世界ランク3位、トップで戦える選手であることは間違いなく、覚悟の戦いをもう一度見せて欲しい。

◇男子-75kg級

世界選手権5度優勝のアガイエフ（アゼルバイジャン）、アガイエフと双璧をなす2012年の世界王者・ブサ（イタリア）、アジア王者のアスガリ（イラン）、そして日本のニュースター・西村拳（にしむらけん）（チャンプ）。スター選手が揃う男子組手-75kg。準々決勝、西村対アスガリのアジア同士の対戦となった。結果は0―0の際どい判定で、アスガリに軍配が上がった。

3位決定戦に回った西村は、相手に豪快な裏回し蹴りを2つ決め、その度に会場を湧かすなど、11点を奪う大勝で銅メダルを獲得した。

◇男子-84kg級

前回王者・荒賀龍太郎（あらがりゅうたろう）（荒賀道場）。世界中の空手ファンの期待をもとにコートに立ったが、3回戦でベラルーシのアントンに0―6で敗戦。

過去の対戦でも苦戦はしていた相手。0―0のまま、残り時間わずかで荒賀が中段のカウンターを抜き、横へ間を切ろうとした瞬間、アントンの上段蹴りが決まり0―3。さらに、相手を崩せない荒賀に、アントンが飛び後ろ回し蹴りを決めた。荒賀を抑えた世界の進化したレベル。世界の進化を超える、荒賀の復権に期待したい。

◇男子+84kg級

日本からは香川幸允（かがわひでよし）（テアトルアカデミー）が出場。1回戦のヤマノグル（トルコ）との試合は、相手の上段蹴りがビデオ判定でポイントになり、先行される苦しい展開。必死に追い上げるも、1―3で敗れた。香川は「あの蹴りさえなければ……、今までの空手人生で最高のコンディションで来ていたので、悔しいです」と語った。

◇男子団体

日本は、前回2016年大会で、約40年ぶりの決勝進出を果たし、銀メダルを獲得した。今大会、日本男子団体組手の歴史を進めるべく挑んだのが、荒賀龍太郎、香川幸允、西村拳の前回大会経験のある3選手に加え、森優太（もりゆうた）、崎山優成（さきやまゆうせい）（近畿大学工学部1年）、嶋田力斗（しまだりきと）（京都産業大学1年）、安藤大騎（あんどうだいき）（近畿大学3年）の初出場4選手。

だが、3回戦でトルコの巧さに苦しんだ。中堅終了時点で2敗を喫してしまう。副将・森が取り返し、大将・香川の相手はトルコのエース・アクタス。さすがの香川も劣勢から

男子個人組手 -75kg級・3位＝西村拳（右）の裏回し蹴りが決まる

女子個人組手 −55kg 級・５位＝山田沙羅（右）

女子個人組手 −50kg 級・優勝＝宮原美穂（左）

の盛り返しに苦しみ、結果、１勝３敗で日本は敗れた。その後、日本は敗者復活戦に回り、サウジアラビア、マケドニア、そして３位決定戦のアゼルバイジャンに勝利して銅メダルを獲得した。

◇女子 -50 kg 級

この階級では、前回大会で惜しくも頂点を逃していた宮原美穂（帝京大学４年）が、悲願の金メダルを獲得。決勝で２０１４年の世界王者・セラップ（トルコ）に裏回し蹴りを決め、３―１で勝利した。

相手のセラップとは５回目の対戦となり、お互いに手の内を知っている。セラップは、駆け引きをするのが上手く、宮原が攻めようとすれば、間合いを切り、逆に攻めようとすれば、蹴りを狙われる。しかし、宮原は自分の勘を信じた。「今までたくさん練習をしてきた（相手を引き込んでの裏回し蹴り）ので、あの場面ではとっさに蹴りが出ました。これからも一戦一戦を大切にして、２０２０年は日本武道館の舞台に立てるようにしたいです」（宮原）。

◇女子 -55 kg 級

女子組手 -55 kg では日本の山田沙羅（大正大学事務職）が初戦から得意のカウンターからの突きで勝ち上がる。準決勝に進出するも、ドロタ（ポーランド）との戦いは、攻め切れずに０―０で終了し、旗判定の末にドロタに軍配が上がった。３位決定戦に回った山田は、イベット（ブルガリア）と対戦。この戦いも１―１の同点で試合終了。注目の旗判定は、３―２でイベットが勝利し、山田の２大会連続のメダル獲得はならなかった。

◇女子 -61 kg 級

女子組手 -61 kg に出場した森口彩美（ＡＧＰ）は、１回戦でカナダのハナと対戦。テコンドーでユースオリンピック出場経験のある強豪・ハナを相手に、森口は攻め切れず、０―２で敗退した。勝ったハナは、準々決勝で敗れ、この時点で森口の世界選手権は終了した。

◇女子 -68 kg 級

４大会連続出場の日本代表・染谷香予（テアトルアカデミー）。イタリアのシルビアとの初戦。集中して試合に入った染谷は、中段突きで先制したが、「勝っていたのに、焦ってしまいました」（染谷）。残り８秒、前に出たところを裏回し蹴りで捉えられ逆転。１―３で敗れた。

◇女子 +68 kg 級

女子組手 +68 kg、前回王者で世界ランク１位の植草歩が大本命。決勝は、前回の世界選手権でも決勝を争ったギリシャのエレニとの頂上対決となった。エレニは、構えを低くして、植草の中段突きを警戒し、残り１分10秒には右の上段突きを決めた。植草も、突き、蹴りを多発するもポイントにはならず、結局０―３

女子個人組手 +68kg 級・準優勝＝植草歩（右）

女子団体組手・準優勝＝
日本（左から染谷香予、川村菜摘、齋藤綾夏、植草歩）

で試合が終了し、植草の連覇はならなかった。

「得意技でしかポイントが取れないのが、今の自分の弱さ。いろいろな技でポイントを取れるように強化していきたい」（植草）。

◇女子団体

２００６年フィンランド大会以来２度目の優勝を狙った日本の女子団体組手。染谷香予（テアトルアカデミー）、植草歩（日本航空）、川村菜摘（警視庁警察学校）の前回も出場したメンバーの３選手と、今回初出場の齋藤綾夏（近畿大学４年）がエントリー。オーダーを川村、齋藤、植草の順で固定して臨んだ。

３回戦のイランとの対決では、植草が代表戦の末にイランのハミデに勝ち日本へ勝利を呼び込むと、さらに準決勝の地元スペインとの試合でも、アウェーのなか、植草が完璧な中段突きを決めて勝利し、日本を決勝進出に導いた。

決勝はフランスとの対戦。２０２０年オリンピック開催国と、２０２４年オリンピック開催国の対決になった。０―１で迎えた大将戦、日本は植草。ここまで何度も日本を救ってきたが、４点差を狙うのは厳しかったか０―２で敗戦。結果２勝０敗でフランスが優勝、日本は惜しくも銀メダルだった。

■パラ空手

世界障がい者空手道選手権大会は、前回より「パラ空手」と名称を改め、視覚障がい・知的障がい・車椅子の３部門で男女別に形競技を実施し、点数制で行われた。

前々回大会では準優勝、前回大会第３位の大庭康資（男子視覚障がいの部・UNIVERSAL 松濤館）が悲願の初優勝を果たした。

男子視覚障がいの部・優勝＝大庭康資

大庭は、予選、決勝ともにウンスを演武し、決勝では44・6点を記録。ジャンプの着地も見事に決め、大きな拍手を浴びた。

２回目の出場となった今在家翔太（知的障がいの部）は、アーナンコウを演武し、38・7点を記録。予選プール３位で惜しくもメダルマッチ進出はならなかった。

◎林晃日本代表監督のコメント

「今大会は、金メダル５つ獲得を目標に掲げていたが、特に組手では非常に厳しい結果だった。今後は強化選手の指導体制をさらに充実させる必要がある。これまでは（代表の）担当コーチと密接な連携を取るという意味では不足だった面もある。日本代表の強化方針、所属チームの強化方針と、選手の特徴や個性、これらの方向性をまとめ、相乗効果を生む体制を確立していきたい」

（写真・文＝空手道マガジン月刊ＪＫＦａｎ）

日本選手団の集合写真

【大会結果】

		優勝	2位	3位	日本人選手結果
男子	▽組手				
	団体 イラン		トルコ	**日本**／イタリア	
	個人	-60kg級 Crescenzo Angelo（イタリア）	**佐合尚人（高栄警備保障）**	Assadilov Darkhan（カザフスタン） Ameknassi Abdessalam（モロッコ）	
	個人	-67kg級 Dacosta Steven（フランス）	Figueira Vinicius（ブラジル）	Velozo Camilo（チリ） Derafshipour Hamoon（イラン）	**篠原浩人（マルホウ）** ＝3回戦敗退
	個人	-75kg級 Asgari Ghoncheh Bahman（イラン）	Busa Luigi（イタリア）	**西村拳（チャンプ）** Aghayev Rafael（アゼルバイジャン）	
	個人	-84kg級 Kvesic Ivan（クロアチア）	Chobotar Valerii（ウクライナ）	Poorshab Zabiollah（イラン） Aktas Ugur（トルコ）	**荒賀龍太郎（荒賀道場）** ＝3回戦敗退
	個人	+84kg級 Horne Jonathan（ドイツ）	Ganjzadeh Sajad（イラン）	Seck Sakho Babacar（スペイン） Yamanoglu Alparslan（トルコ）	**香川幸允（テアトルアカデミー）** ＝1回戦敗退
	▽形				
	団体	**日本**	スペイン	イラン／イタリア	
	個人	**喜友名諒（劉衛流龍鳳会）**	Quintero Capdevila Damian Hugo（スペイン）	Sofuoglu Ali（トルコ） Busato Mattia（イタリア）	
女子	▽組手				
	団体 フランス		**日本**	スペイン／エジプト	
	個人	-50kg級 **宮原美穂（帝京大学）**	Ozcelik Arapoglu Serap（トルコ）	Plank Bettina（オーストリア） Bahmanyar Sara（イラン）	
	個人	-55kg級 Banaszczyk Dorota（ポーランド）	Bitsch Jana（ドイツ）	Wen Tzu-Yun（中華台北） Goranova Ivet（ブルガリア）	**山田沙羅（大正大学事務職）** ＝第5位
	個人	-61kg級 Prekovic Jovana（セルビア）	Yin Xiaoyan（中国）	Sadini Btissam（モロッコ） Lotfy Giana（エジプト）	**森口彩美（AGP）**＝1回戦敗退
	個人	-68kg級 Zaretska Irina（アゼルバイジャン）	Isaeva Victoria（ロシア）	Matoub Lamya（アルジェリア） Kopunova Miroslava（スロバキア）	**染谷香予（テアトルアカデミー）** ＝1回戦敗退
	個人	+68kg級 Chatziliadou Eleni（ギリシャ）	**植草 歩（日本航空）**	Abouel Yazed Shymaa（エジプト） Antunovic Hana（スウェーデン）	
	▽形				
	団体	**日本**	スペイン	イタリア／トルコ	
	個人	Sanchez Jaime Sandra（スペイン）	**清水希容（ミキハウス）**	Lau Mo Sheung Grace（香港） Bottaro Viviana（イタリア）	

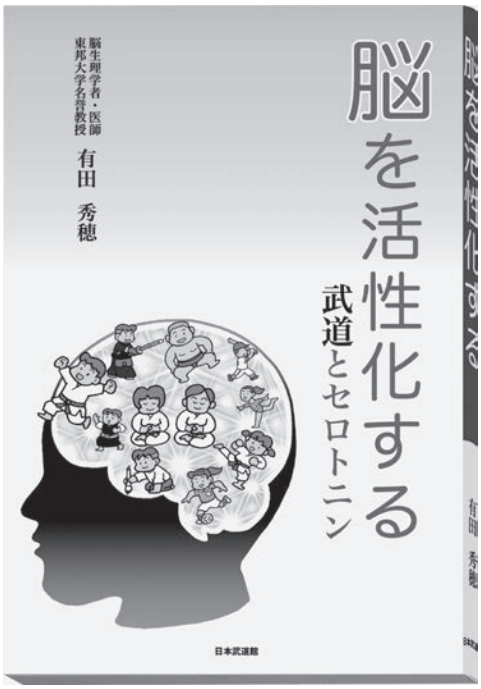
好評発売中

脳を活性化する

武道とセロトニン

脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授
有田秀穂 著

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もができる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円＋税

有田秀穂
（ありた・ひでほ）

昭和23年（1948）東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。

主な内容

第1部　脳の活性化とは
坐禅とセロトニン
ストレスとしごき
空海はセロトニン活性の達人
『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング
沢庵の「不動智」とワーキングメモリー
不動明王と心の三原色
『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識
悪夢を消すには？
精進料理とセロトニン合成
「茶の湯」とセロトニン的生活
「自然に体が動いた」を脳科学で解く
勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する
「武道の礼法」は社会脳を育む
相撲の「四股」は品性を育む
書道も心技体の人間修行
アンドロゲンと闘争心
日本の祭にはセロトニンがたっぷり
スキンシップとオキシトシン
空手の稽古は坐禅修行に通じる
脳は「丹田呼吸法」をどう操るか
試合における最適な覚醒状態
サイエンスは「気」をどこまで解明したか
仙人術を脳科学する
第2部　対談「武道で脳を活性化しよう」
日本武道館会長　松永　光
東邦大学名誉教授　有田　秀穂
…他

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

武道の全容をこの一冊に集大成！

日本の武道

日本武道館 編

（B５判・上製・箱入・526頁）

『日本の武道』の英文版（DVD付）

BUDŌ：THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

武道における礼法を小笠原流宗家が直々に指南

武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

（四六判・上製・278頁）

武道をわかり易く描いた教養マンガ

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B５判・並製・236頁）

希代の弓人阿波研造の人物伝

霊箭 阿波研造物語

小学校教諭

馬見塚昭久 著

（四六判・上製・320頁）

日本人が拠り所としてきた価値観を詳説

日本の元徳

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

（四六判・上製・334頁）

『五輪書』などの代表的な武道伝書を詳解

武道伝書を読む

天理大学教授

湯浅 晃 著

（四六判・上製・348頁）

著者の半生をたどり、弓道の魅力に迫る

弓道 その魅力

山口大学名誉教授

岡村豊太郎 著

（四六判・上製・272頁）

子どもを育む武道の教育力を詳説

武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）

武道の文化的・伝統的な事柄を解明

今、なぜ武道か

―文化と伝統を問う―

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）

第６回全国合気道指導者研修会

指導法を学んで合気道の魅力を伝える

第６回全国合気道指導者研修会（主催＝日本武道館・合気会、後援＝スポーツ庁）は11月２日～４日の３日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで行われた。学校教育における合気道授業が効果的に展開されることを目的に、講師・助講師10名、合気道未経験の中学校保健体育科教員を含む参加者70名が参加した。

■１日目（11月２日）

開講式では、はじめに植芝守央（うえしばもりてる）合気会理事長が主催者挨拶を行い、「次期学習指導要領には、武道実施種目として合気道が明記されることになりました。今回参加の保健体育科の先生には、合気道のすばらしさを理解し、子どもたちに合気道の魅力を伝えていただきたい。地域の指導者には、将来外部指導者として要請があったときに応えられるよう準備を整えていただきたいと思います。実り多き研修会となることを期待いたします」と述べた。

続いて、三藤芳生（みふじよしお）日本武道館常任理事・事務局長が挨拶に立ち、「合気道指導者としての資質向上、指導

力を発揮していただくことを目的とした研修会です。次年度からは、スポーツ庁の事業として、全国各地域で複数種目を実施できるモデル実践校を指定する計画があり、合気道の実施校の増加が期待されます。指導現場においては、指導者の力量が生徒の成長につながります。本研修会では日本を代表する先生方から、合気道のすばらしさを学んでいただきたいと思います」と述べた。

開講式に続いて、植芝守央特別講師による基調講演「合気道とは」が行われた。はじめに、合気道の歴史から現在に至るまでの資料映像を鑑賞し、続いて、合気道の理念と技法について解説を交えながら、基本技を中心に実技を披露し、稽古法の説明を行った。最後に「中学、高校での合気道実施校はまだまだ少ない状況ですが、合気道に対する理解を深める努力を続けていき、日本の誇りである武道、合気道の普及振興に努めていきたい」と結んだ。

植芝守央
合気会理事長

三藤芳生
日本武道館常任理事・事務局長

植芝特別講師による基本技を主とした実技披露

次に、川城健講師（かわしろたけし）による「生涯スポーツにつながる合気道の授業」の講義が行われた。主な内容は次の5点であった。

(1)学校体育における武道授業は、多くが未経験者であり、やりたくない子どももいる。

(2)「生涯スポーツ社会の実現」につながる授業を意識してほしい。

(3)楽しい、おもしろい、もっとやってみたいという気持ちを育てる授業づくりを心がける。

(4)生徒が持っている力で授業に臨ませる。授業後に「楽しかったか？」と聞かない。生徒は反射的に「楽しい」と答えてしまう。感想は、授業ノートに記入させる方が効果的。

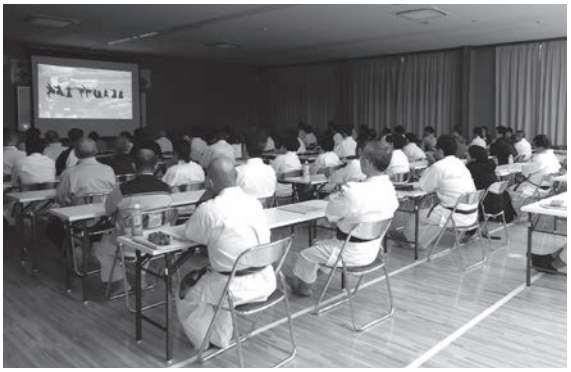
(5)保健体育科教員はすべての種目に精通しているわけではない。また、精通していなければ教えられないということでもない。本研修会で、合気道の特性を学び、合気道をもっとやってみたいという子どもを育ててほしい。

A グループ＝梅津助講師による呼吸法の指導

■2日目（11月3日）

午前中は、合気道を専門としない中学校・高等学校の保健体育科教員、授業協力者として指導経験のある参加者を中心とした学校指導法のAグループと、各地域の社会体育指導者を中心としたBグループに分かれて講習が行われた。

Aグループの一コマ目は梅津翔助（うめつしょう）講師による「中学校合気道指導法①」が行われた。中学1年の学習内容として、はじめに「礼法」「受身」「体さばき」を指導。「受身」は座った状態から始め、片膝を立てる、中腰、


全員で『中学校武道必修化指導書』武道編 DVD を視聴

A グループ＝日野講師による正面打ち第一教の指導

B グループではハラスメントの実例・対策を各グループごとに協議し（写真右）、発表を行った（写真左）

最後に立った姿勢と、段階を踏んで指導することが重要と説明した。続いて、「角落し」「小手返し」「四方投げ」の指導法を行った。最後に、「合気道は日常生活とかけ離れた動作なので、繰り返すことで動きに慣れていくことが授業における指導法である。技を受けるときに、どのような動きで『受身』をとるかを全員で何度か繰り返すことにより、スムーズに技の指導に入れる」と初心者指導のポイントをあげた。

続いて、日野皓正講師による「中学校合気道指導法②」が行われた。中学2年の学習内容を日本武道協議会発行の『中学校武道必修化指導書』に沿って指導した。指導のポイントは次の4点であった。

(1)技によって動きが複雑になるので、指導する前に、はじめにどういうことをしようとしているのかを説明することが大事。

(2)相手の体勢を崩すとき、真後ろではなく、斜め後ろに崩すと効果がある。技の理合を理解させると、生徒の意欲が高まる。

(3)倒すのではなく、相手が安全に受身がとれるようにするにはどうしたらよいか、考えさせる。

(4)「受身」のとき、手をどこにつくか、膝をどこにつけばいいか。態勢を崩しながら、バランスをとるという感覚を身につけると、楽しさにつながる。

Bグループは、午前中、尾﨑晌講師の司会進行で「全国指導者研修①」が行われ、「倫理的問題の事例報告・取組」「ハラスメントの実例・対策」について、協議、発表を行った。

午後は、研修室で「全国指導者研修②」として、林典夫講師の司会・進行により、中学・高校で合気道授業を行っている参加者の授業実践報告が行われた。

「小手返しは、技をかけている実感があるようで生徒には好評」「呼吸法は、手だけで転がす形になってしまい、指導が難しい」「生徒同士で教え合うことは効果的」「相手と呼吸を合わせることを指導するのは難しい」「嫌いにならないように、飽きさせないような授業にするための工夫があれば教えてほしい」など、現状、課題があげられた。

続いて、『中学校武道必修化指導書』武道編ＤＶＤを視聴後、大道場

に移動し、全員が参加して、金澤威講師による「中学校合気道指導法③」が行われた。既に基本を学習している3年生を対象とした学習内容を解説した。「技をかけるときに、力で倒そうとせず、倒れていくのを助けるという意識をもつ」「一気に力を加えるのではなく、少しずつ加える。相手の動きに合わせる」「技を受けるときは、自分から倒れるのではなく、相手の動きを吸収するという意識をもつ」など、指導のポイントをあげた。また、日野講師からは、直接身体が触れることに抵抗をもつ生徒がいる場合、タオルを使って技を掛け合う方法など、導入時の工夫が示された。

魚住講師による「宮本武蔵の五輪書に学ぶ」の講義

■3日目（11月4日）

魚住孝至（うおずみたかし）講師による講義「宮本武蔵の五輪書に学ぶ」が行われた。立木幸敏（たちぎゆきとし）講師が司会を務め、はじめに魚住講師の経歴を紹介し、講義に入った。

「武蔵の実像」「術理の展開」「五輪書の思想」「武蔵と日本人の『道』」の4部構成で行われた。生涯無敗といわれる武蔵が重視したことは、術の基礎を重視したことであり、実戦的な場面での工夫を重ね、実際に役立つ具体的な道理を追求してきた。「自らの道を徹底することで、普遍性に達する」という思想は現在にも通じるものである。「本研修会参加の皆様も、広い視野で物事を知り社会を知り、次の世代に何を伝えていくか、考えていただきたい」と締めくくった。

閉講式では、林典夫合気会常務理事が主催者挨拶を行い、すべての日程が終了した。

（文責・日本武道館振興課）

マンガ・武道の偉人たち

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

B5判・302頁・本体1,000円+税

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯をマンガで学べる。
収録偉人一覧：嘉納治五郎（柔道）、高野佐三郎（剣道）、阿波研造（弓道）、双葉山（相撲）、船越義珍（空手道）、植芝盛平（合気道）、宗道臣（少林寺拳法）、園部秀雄と三田村千代（なぎなた）、鵜沢尚信（銃剣道）

ご注文・お問い合わせ 日本武道館 月刊「武道」編集部 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
http://www.nipponbudokan.or.jp インターネットでのご注文は、「武道館単行本」と検索!

好評発売中

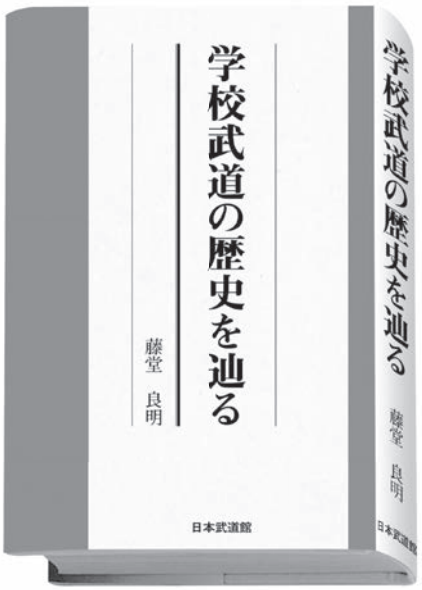
学校武道の歴史を辿る

藤堂良明（とうどうよしあき）（筑波大学名誉教授）著

四六判・上製・354頁・本体2400円＋税

江戸時代の藩学教育に遡る学校武道の歴史。明治維新を迎え武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度のなかに組み込まれ発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え「格技」として復活、平成20年には「中学校武道必修化」が実現した。

学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。



著者略歴

藤堂良明（とうどう　よしあき）
1949年（昭和24）、埼玉県生まれ。東京教育大学体育学研究科修士課程修了。筑波大学教授（体育科学系）、同大学体育専門学群副学群長、同大学附属中学校長、全国国立大学附属学校連盟会長、日本教育大学協会副会長、日本武道学会理事、全日本柔道連盟教育普及委員会委員などを歴任。
現在、筑波大学名誉教授。博士（学術）。柔道七段。埼玉県柔道連盟副理事長。日本古武道協会常任理事。

目　次

第1部　江戸時代の学校武道
第1章　藩学の創設と文武学習
第2章　藩学における教育目標
第3章　藩学における武芸教育
第2部　明治時代の学校武道
第4章　武芸の衰退と学校教育制度の確立
第5章　学校武術採用に関する体操伝習所の答申
第6章　山岡鉄舟と嘉納治五郎
第7章　嘉納治五郎の学校柔道普及戦略
第8章　明治期の学校における武術の普及状況
第9章　武術の正課採用への歩み
第3部　大正時代の学校武道
第10章　文部省主催武術講習会の目的と内容
第11章　学校体操教授要目の制定と内容
第12章　「学校体操教授要目」制定後の体育界の動向
第13章　大日本武徳会の設立と影響
第14章　学生武道の隆盛
第15章　改正学校体操教授要目の制定と内容
第4部　昭和20年以前の学校武道
第16章　精力善用国民体育と学校武道
第17章　柔・剣道が正課必修に
第18章　戦前の学生武道大会の発展
第19章　国民学校体錬科の登場
第20章　第二次大戦中の体錬科武道
第5部　戦後の学校武道
第21章　戦後の学校武道の禁止と復活
第22章　「格技」の誕生
第23章　格技から武道へ
第24章　中学校武道必修化の実現
第25章　これからの学校武道のあり方

発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中

合気道に活(い)きる

合気道九段 多田(ただ) 宏(ひろし) 著

四六判・上製・402頁・本体2400円＋税

昭和初期に生れ、戦後の早大生時代に植芝盛平、植芝吉祥丸、船越義珍、中村天風、日野正一の諸先生の教えを受け、合気道の稽古を生涯の道と志す。

昭和から平成への激動の時代に、本部道場師範を務め、各大学に合気会を創設、自らの道場も主宰し、さらに欧州各国への普及に尽力。

合気道に活きた泰斗の軌跡を余すところなく示す珠玉の一冊。

多田 宏（ただ ひろし）

昭和4年（1929）12月14日生。東京都出身。早稲田大学第一法学部在学中の昭和25年、植芝道場に入門、合気道を始める。植芝盛平先生、吉祥丸先生に師事。同年、天風会入会、中村天風先生に師事。同年、一九会道場入会、日野正一先生に師事。昭和27年早稲田大学卒業。合気道の稽古と日本武道の歴史研究を専門とする道に進む。

合気道本部師範・防衛庁師範を務め、慶應義塾・学習院・早稲田の各大学合気道会設立に尽力、師範となる。昭和39年渡欧し、欧州各国での合気道普及に尽力。イタリア合気会を創設。

現在、合気会本部師範、早稲田大学合気道会名誉師範、東京大学合気道気錬会名誉師範、イタリア合気会主任教授、国際合気道連盟委員など。また、合気道多田塾を主宰。合気道九段。

目次

第一章 生い立ち
一 原点
二 幼稚園から小学校時代
三 第一東京市立中学校
第二章 師との出会い
一 松濤 船越義珍先生
二 植芝盛平先生・吉祥丸先生
三 中村天風先生
四 鉄叟日野正一先生・みちゑ先生
第三章 生き方の方針
一 植芝道場 先輩の教え
二 命の基を訪ねて
三 一生の方針を定める
第四章 植芝盛平先生の教えと稽古
一 気の錬磨
二 合気道の心
三 心学の道、心法の道
四 稽古と法
五 稽古の目的、人の生き方
六 「機」について
七 錬る
八 自然な動き
九 場を主宰する
第五章 合気道の普及
一 合気道の発展
二 「気の流れ」の錬磨
三 ヨーロッパの合気道
四 合気道の国際的普及
五 気の流れと縁
第六章 呼吸法（調気の法）
終 章 稽古を顧みる

発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

三輪田学園中学校 空手道授業を視察

武道の精神を伝える授業を目指して

平成 30 年度中学校武道授業（空手道）指導法研究事業

平成30年度中学校武道授業（空手道）指導法研究事業（主催＝日本武道館・全日本空手道連盟・日本武道協議会）が昨年11月29日・30日に研究者5名と研究協力者4名が集まり、東京都千代田区の三輪田学園中学校・高等学校と日本武道館で行われた。29日には、研究者たちは三輪田学園の中学3年生（1クラス・38名）の空手道授業を視察し、指導法の研究協議を重ねた。

■1日目（11月29日）

12時30分から三輪田学園中学校・高等学校の会議室で開講式が行われた。

はじめに有竹隆佐（ありたけたかすけ）全日本空手道連盟専務理事が「現在、空手道の採用校は300校近くあります。これを２０２０年までには500校にしていきたいと考えております。次世代を担う者たちを育てる中学校武道必修化にとって、この研究会は非常に大切な事業であると実感しております」と主催者挨拶を述べた。

同じく主催者を代表して、三藤芳生（みふじよしお）日本武道館常任理事・事務局長が「中学校武道必修化は今年で丸7年を迎えました。空手道は300校近くの学校で採用され、当初から比べると2倍以上の増加であります。来年度はスポーツ庁の事業として、複数種目を実施できるモデル実践校を指定し、予算化することが内定しており

ます。空手道には中学生が体力的にも、あるいは礼儀作法、精神的にも学習効果の高い素材がたくさんあります。先生方には今後も空手道の素晴らしさを全国の中学校に広めていただくよう、よろしくお願いいたします」と挨拶を述べた。

その後、研究者・研究協力者の自己紹介、本研究事業の概要が説明された後、授業視察に移った。

◇

授業は体育館で行われた。授業を担当するのは喜納真由美（きなまゆみ）教諭。喜納教諭は前任校の普連土（ふれんど）学園中学校でも空手道の授業を6年間行っており、平成29年度から三輪田学園中学校・高等学校に赴任。三輪田学園中学校では中学3年生で週3回の体育のうち1回、武道の授業を実施し、喜納教諭が赴任してからは空手道の授業を行っている。中学3年生の生徒たちは通年授業1年目となり、こ

研究者・研究協力者　一覧

研究者

小山　正辰　森ノ宮医療大学特任教授、大阪大学兼任講師
石川　周亨　北海道余市町旭中学校教頭
日野　一男　実践女子大学名誉教授、日本ハラスメント＆リスクマネジメント総合研究所代表
井下　佳織　麗澤大学准教授
佐藤　　彰　神奈川県立平塚工科高等学校教諭

研究協力者

喜納真由美　三輪田学園中学校・高等学校非常勤講師
園田　俊一　福岡県空手道連盟常任理事
山田ゆかり　東大阪大学敬愛高等学校教頭、全日本空手道連盟理事
柴　　晶子　株式会社 JUN NERGY Communicator director

前列左から、小山研究者、日下修次全日本空手道連盟理事・事務局長、有竹専務理事、三藤日本武道館常任理事・事務局長、吉田珠美三輪田学園中学校・高等学校校長、松尾貴之日本武道館振興課長、田谷将俊同振興課副主事
後列左から、柴研究協力者、井下研究者、佐藤研究者、石川研究者、園田研究協力者、山田研究協力者、喜納研究協力者、岡﨑紀創全日本空手道連盟職員

全員で中段突きの確認

の日は今年度20回目の授業となる。

準備体操の後、喜納教諭が前で示範しながら、全員でその場での順突きや中段突きなどの動作を確認。そして、基本形2を行った。

続いて喜納教諭が「今日は無号令で基本形2ができるようになってください」と課題を与えて、6つのチームに分かれて、それぞれ基本形2を確認した。各チームではiPadを使用してチーム全体での動きを録画し、「まだ突きの腕の位置が高いかな？」などと振り返りながら技術を磨いていた。

チームでの練習が終わった後は、「気をつけ、礼」と退場のみの号令で、8チーム一斉に基本形2を行った。喜納教諭は「初めて号令なしでやったとは思えない出来栄えです。自信を持ってください！」と生徒を励ました。

基本形2の後は、ミニ演武会に移った。生徒たちは察して、研究者たちが座るイスを準備していたのが印象的だ。まず全員で、その場基本、移動基本、基本形1を披露。その後5チームに分かれて、グループごとに平安二段、平安初段、平安三段、平安四段、平安五段の形分解が行われ、最後に選抜チームによる基本形1の演武が行われた。なお演武を行うチームのみに照明が当たるよう、ライトが随時切り替えられた。

最後に、喜納先生は生徒たちを「よくここまで仕上げてくれました。感動しています！　人間は大きな目標

iPad を使用しながら基本形２を確認

選抜チームによる基本形１の演武

◎喜納真由美（きなまゆみ）教諭（三輪田学園中学校・高等学校非常勤講師）

「普連土学園中学校で６年間、空手道の授業をしておりました。それを参考にして『平常心』や『きめ』などの武道用語を使いながら、全体のテーマを『察する』として授業を行ってきました。日常生活での対人関係で重要な『察する』ということも空手道を通して学んでほしいからです。私が平安の形を行っている映像を生徒のｉＰａｄに送って平安の形を覚えてもらいました。生徒のやる気を引き出すには、環境や情報機器というのは重要な要素になると思います。ｉＰａｄでお互いの動きを確認したり、照明を切り替えながら生徒のやる気を引き出すように心がけました。

を持つと強いのです。演武会という目標をもった皆さんは、それに向けて突き進んでくれました。君たちは空手道を一生続けるわけではないと思います。しかし、空手道から学んだ『平常心』『集中力』『察する』ということを日常の生活で活（い）かしていくことが重要です。高校生になっても、この授業で学んだことを忘れないで学生生活を送ってください」と論し、授業を締めくくった。

▽**生徒の声**

「空手道は見たことがなくて最初は不安はありましたが、みんなの動きが揃った時はかっこよく、とてもきれいでした」

「最初の授業はわからないことばかりでしたが、こうやってみんなで協力して、空手道はすごく楽しいということがわかりました」

「チームワークとか先生が言っていた『察する』ことは今後も活かせることだと思います」

◇

場所を会議室に戻し、研究協議に移った。はじめに喜納教諭から授業の詳細や経緯についての説明の後、質疑応答が行われた。研究者や研究協力者からは「生徒の反応が良かったのは、喜納教諭の言葉遣いや接し方が丁寧だったからではないか」「上靴がきれいに揃えられていたのは指導が行き届いている証拠である」「準備体操の中に、空手道の動きを取り入れたり補強運動を入れても良いのではないか」「場所が広いので、もう少し移動基本を取り入れてもいいのではないか」などの意見が出た。

次に、「女子生徒の武道授業について～空手道授業実施に向けて～」というテーマで研究協議を実施し、女子生徒に対する空手道授業の課題についてグループごとに話し合い、検討した。

■２日目（11月30日）

翌30日は日本武道館大会議室で、体育祭用団体演武マニュアルについて、授業における多様な空手道指導についてなど研究協議が行われた。

研究協議終了後、閉講式に移り、小山正辰（こやままさし）研究者から総括が述べられた後、日下修次（くさかしゅうじ）全日本空手道連盟理事・事務局長と吉野喜信（よしのよしのぶ）日本武道館振興部長が主催者挨拶を行い、閉会した。

好評発売中

マンガ・武道の偉人たち

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯を描く！

漫画家
別府大学客員教授
田代しんたろう 著

B5判・並製・302頁・本体1000円＋税

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」。人気を博した「武道の偉人」シリーズが単行本化！

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道の現代武道9道の普及・発展に尽力した偉人たちの生涯を通じて、各道の歴史をひも解きます。

大人も子どもも読んで楽しく、歴史も学べる武道教養マンガ。

収録偉人一覧

嘉納治五郎（柔道）　高野佐三郎（剣道）　阿波研造（弓道）　双葉山（相撲）
船越義珍（空手道）　植芝盛平（合気道）　宗道臣（少林寺拳法）
園部秀雄と美田村千代（なぎなた）　鵜沢尚信（銃剣道）

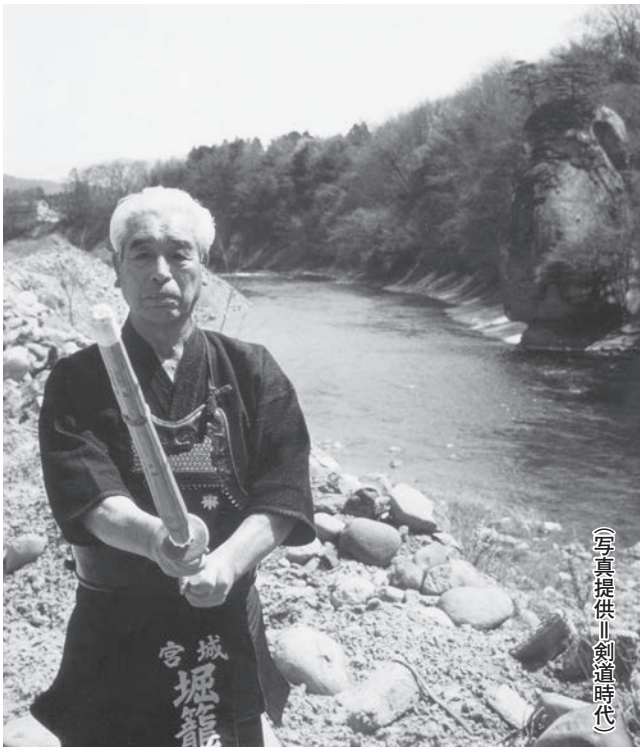
編集・発行　公益財団法人日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる剣道修錬を集大成した本格的剣道修行論

好評発売中!

剣の清流



（写真提供＝剣道時代）

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠　敬藏　著

（四六判・上製・344頁）

目次

第一章　剣道
第二章　剣道の歴史
第三章　修錬・先人に学ぶ
第四章　剣道の極意
第五章　武道における「礼」
第六章　剣理
第七章　指導者としての心構え

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

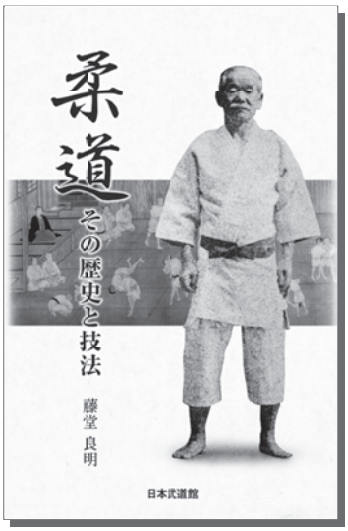
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学名誉教授 **藤堂 良明** 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。

武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた〝武道としての柔道〟を見失わないでいただきたいと願うものである。（本書「あとがき」より抜粋）

目 次

第一章 組討ちの起こりと技法
- 体術の起こりと技法
- 組討ちの体系化と技法

第二章 柔術諸流派の歴史と技法
- 竹内流腰廻
- 関口新心流柔術
- 起倒流柔術
- 起倒流柔道
- 直信流柔道
- 真之神道流柔術
- 天神真楊流柔術

第三章 講道館柔道の歴史と技法
- 講道館柔道の創設と技法
- 嘉納治五郎の乱取開発
- 講道館柔道の行事と整備
- 警視庁武術大会の勝利と技法
- 学校体操への柔道導入の試み
- 学校における柔道普及の実態
- 高専柔道の起こりと技法
- 嘉納治五郎の他武道への接近
- 精力善用国民体育の創案と技法
- 全日本柔道選士権大会の開催と技法

第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法
- 第二次大戦中の柔道界と技法
- 第二次大戦後の柔道禁止と復活
- 格技柔道から武道柔道へ
- 女子柔道の競技化と技法

第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題
- 柔道技法の変遷と特徴
- 柔道の国際的普及と発展
- 段位制度の国際比較
- 柔道の国際化と課題

編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

月刊 心技体 人を育てる総合誌
武道

月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。